

The
Professional
series
since 2008



Management in the Global Society

グローバル社会における

経営 東京都市大学出身の
有名企業経営者及び
起業家による特別講義

 東京都市大学
TOKYO CITY UNIVERSITY

経営システム工学科
DEPARTMENT OF
INDUSTRIAL & MANAGEMENT SYSTEMS ENGINEERING

グローバル社会の マネジメント 技術を学ぶ



知識工学部

経営システム工学科

TOKYO CITY UNIVERSITY
FACULTY OF KNOWLEDGE ENGINEERING
DEPARTMENT OF INDUSTRIAL & MANAGEMENT SYSTEMS ENGINEERING

今は情報とマネジメントに関する専門的な知識を持った技術者が要求されています。そして固有技術だけを持った技術者ではなく、経営の観点から世の中の動きや問題を把握し、情報処理技術を活用することにより付加価値の高い製品やサービスあるいはシステムを生み出し、マネジメントすることができる人材の養成が必要です。本学科では、経営活動のための情報活用技術に特化した教育を行い、起業家マインドを持ち、より横断的な知識と技術力を持って、グローバルな視点から経営を考え、様々な問題に対して提案を行うために、国際競争力のある高付加価値な製品やサービスあるいはシステムを創出し、その研究、開発、設計、生産をマネジメントできる技術者を育成します。



卒業後の進路

活躍の場は、一般企業、研究・教育機関、放送局、官公庁、自治体などさまざまです。

分野としては、研究、企画・開発、経営管理、システムインテグレータ、製造、生産管理、品質管理、品質保証、SE、マーケティング、販売など。

領域としては、情報産業（ソフトウェア開発、マルチメディアデザイン）、電気機器製造業の他、自動車、印刷、物流、流通、シンクタンク、金融など、多岐の産業にわたります。

系統

学生が選択した研究分野によって、以下の4系統の進路が予想されます。

◆**システム・情報系** 情報処理、コンピュータシステム、ソフトウェア関連ほか

◆**コンサルティング系** 総合研究所（シンクタンク）、コンサルタント業、人材派遣関連ほか

◆**マネジメント系** 飲食・サービス、運送、機械、倉庫、建設、金融・証券、電気電子、卸売・小売、電力・ガスほか、あらゆる分野が対象

◆**製造メーカー系** 自動車、エンジニアリング、輸送用機器、電気電子機器、その他製造業

職種

カスタマーエンジニア、システムエンジニア、生産管理技術者、品質管理技術者、テクニカルコンサルタント、環境コンサルタント、プログラマー、システムインテグレータ、ファイナンシャルプランナー、セールスエンジニア、エンジニアリングコンサルタント、ITエンジニア、教員・公務員、研究員ほか

進学先

大学院修士・博士後期課程（システム情報工学専攻、情報工学専攻など）へ

グローバル社会における経営システム工学科



東京都市大学
知識工学部 経営システム工学科
主任教授 横山 真一郎

今日の高度情報化社会において、企業では業務プロセスの効率化が進み、生産性は飛躍的に向上しました。さらにグローバル規模でビジネスの再編が繰り広げられ、市場は熾烈な競争状態にあります。

これまで日本は工学を中心に発展してきました。しかしものづくりは得意なものの特許取得などを含め技術成果をマネジメントする能力はそれほど高くありません。さらに高度情報化社会になり、「効率化」、「品質向上」、「コスト削減」、さらに「システム化」や「統合」など企業内の問題や、「環境経営」、「情報ネットワーク」、「社会サービス」、「国際化」などのような企業の枠組みを越えた問題が数多く存在しています。

今、このような状況の中で活躍できる人材が求められています。このニーズを踏まえ経営システム工学科は、工学を基礎としながらも、人間や環境に配慮したマネジメント感覚を持つ技術者の育成を目指しています。経営においても「ものづくり」と同じように凡帳面で粘り強い日本人の性格や日本的な感性やコミュニケーションが必要であり、経営をさらに進歩させ「革新」させるためには幅広い知識と経験に基づく洞察力や閃きが必要だと考えています。そのためには、講義や演習だけの教育ではなく、実社会においてより多くの現場や現実を直視することが必要です。

そのために当学科では、経営者の方から様々なご意見を伺うことが有益であると考え、実際に実践してきました。そして今回は「グローバル社会における経営」に着目し企画しました。幸い本学の卒業生の活動範囲は、工業分野に限らず、広範囲な産業分野および地球上のあらゆる地域に広がっています。その卒業生で日本の経済をリードしている経営者の方から、直接経営に対する努力と裏舞台などについて、世界を相手にした経営の楽しさと難しさとそこに秘められた事柄などを分かりやすくお話し頂きました。これにより若者たちが、「世界に誇れる日本の経営」に対しての興味あるいは知的刺激が与えることができればと願っています。

平成 27 年 7 月吉日

特別講義趣旨

東京都市大学
知識工学部 経営システム工学科
教授 松崎 吉衛

この特別講義は「グローバル社会における経営」をテーマに本学出身の経営トップを講師に迎えて、生きたビジネス社会を学ぶものです。学生が経営トップの話を直接聞く機会には中々ありませんが、講師が本学先輩なので、学生時代の話から始まり和気藹々とした雰囲気の中で講義が進みます。

本講義は 2011 年に、当時経営システム工学科教授であった鈴木威一先生が創設したものです。

鈴木威一先生はグローバル企業フィリップスのオランダ本社 Vice President などを歴任され、日本の若者に“もっと世界で活躍してもらいたい”との思いでこの特別講義を創設されました。この間の経緯については、本学発行の「TCU QUARTERLY No.180 2011.7」に掲載されましたので、これを以下に再掲いたします。

『グローバル社会における経営』をテーマに 本学出身の経営トップによる特別講義を開催



東京都市大学
知識工学部 経営システム工学科
教授 鈴木 威一

1943 年東京都生まれ。66 年武蔵工業大学工学部電気通信工学科（現・東京都市大学知識工学部情報通信工学科）卒業。同年沖電気工業株式会社に入社。沖タイランド代表取締役副社長、インターナショナルレクティブファイアー（IR）社、Far East 社代表取締役社長、IR（USA）社副社長などを経て、フィリップス（オランダ本社）副社長に就任。定年後の 2004 年、株式会社エグゼクティブ・コンサルティングを設立し、代表取締役に就任。株式会社エグゼック取締役会長も兼任する。10 年 4 月本学教授に就任し、国際的に活躍できる経営者の育成に尽力している。早稲田大学理工学術院経営システム工学科非常勤講師兼プログラムディレクター。

社会人と共に学び、語り合う環境を。大学と社会をつなぐ新たな試み

2011 年 4 月 19 日から 7 回にわたり開講された、知識工学部 経営システム工学科の特別講義『グローバル社会における経営』。各界で活躍されている本学出身の経営者を毎回講師としてお招きし、東京都市大学渋谷サテライトクラス※を利用して行われました。

技術と積極性を兼ね備えた人材の養成を目的に、企業のグローバル化に対する取り組みを経営者自身の言葉でお話いただいたこの特別講義。実施に向けて尽力されたコーディネータの鈴木威一教授に、開講を思い立たれたきっかけとその意義についてうかがいました。

※「東京都市大学渋谷サテライトクラス」は、本学と早稲田大学との共同大学院「共同原子力専攻」の教育・研究開発の拠点として、学校法人五島育英会法人本部のある五島育英会ビル内（渋谷区道玄坂 1-10-7）に設置されている施設。

学生自身が運営し先輩たちと共に学ぶ

この特別講義は、もともと知識工学部 経営システム工学科 2 年生の授業として設けられていたもの。これを学部 2 年生だけではなく他の学年や卒業生にまで対象を拡大し、外部から講師を招こうと発案したのが鈴木威一教授でした。

「経営工学を学ぶには、常に社会と接点を持つ必要があります。アメリカでは日本で言う所の " 社内教育 " を大学が行って即戦力を養成し、社会に出てから必要に応じて大学に戻り、MBA などの資格を取得するというのが一般的です。一方日本の場合は産学の連携が希薄で、技術系の MBA に当たる MOT（Management of Technology）を養成する体制も整っていません。このままでは有能な人材が日本を離れてしまうという危機感がありました」（鈴木教授）

オランダに本拠を置く多国籍企業・フィリップスの本社副社長を務めるなど、海外でのビジネス経験が豊富な鈴木教授。在職時にはさまざまな国籍の部下と仕事をされたそうですが「日本人の若者が一番元気がなかった」とおっしゃいます。

「能力がないわけではないのに、新事業や難題にチャレンジしようとする気概がない。人を押しつけても前に出ようとする他国の若者たちの中では埋没しがちです。今や製造業や技術系の企業は外国に出るのが当然の時代であり、グローバル化は他人事ではないということを学生たちに理解してもらいたいと痛感しました。それには現場の先輩たちに具体的な話をしてもらうのが一番だろうと考え、『グローバル社会における経営』というテーマを設けたわけです」

今回は学生 70 名・卒業生 30 名を定員とし、講師には IT 企業や金融、製造業などの本学出身経営者を招聘。受講希望者が定員を上回るほどの好評を博しました。

「社会に出て数年すると、再び学問への意欲が湧いてくる。そんな人たちにチャンスを与えることにこそ、大学としての価値があると思います。この講義はできるだけオープンにして、先輩後輩が共に学ぶ場にしたいと考えました。講義終了後には世代・業種を越えた交流会も開いており、学生が年の近い先輩と接する機会を作りました。渋谷サテライトクラスは立地も良く、卒業生にとっても仕事帰りにアクセスしやすい場所。在校生にとっては人脈を広げるチャンスにもなると思います」

特別講義は学生の自主運営を基本としており、会場の設置から講師との連絡まで学生自身の手で行われました。

「予算ゼロからのスタートでしたので、サテライトクラスを有効活用させてもらい、学生が運営する形を取りました。毎回出席者からアンケートを回収して、その集計や分析も学生が担当し、受講者の要望への対応や反省点について何度もディスカッションを行いました。講師である経営者と直接お話をする機会もあり、学生たちは短期間で驚くほどの成長を見せます。講師の方にも"若い人と接して勉強になった"と評判が高かったようです」

学生と企業双方にメリットのある講義を

鈴木教授は本学就任前から旧武蔵工業大学出身の経営者による交流が少ないことを痛感し、3 年前に情報交換を目的とする会を仲間と共に設立。今回の講師は、ほとんどがこの会のメンバーとのことです。

「技術系の人間が経営者の立場に置かれると、経理や経営に関する知識の不足を感じるようになります。本学出身の経営者同士が交流することで、知識や経験を共有できればと考えたのが会を設立するきっかけとなりました。この会には経営者に母校への関心を持ってもらうという目的もあります。私個人も経験がありますが、企業のトップは社内の目もあって自分の母校だけを特別扱いすることに抵抗があるため、卒業以来大学に来たことすらないという方が多いのです。今回の特別講義のように大学側からの要請ということであれば、気軽に足を運んでいただけるのではないかと考えました」

中には講義に際して自社の就職担当者を同行させ、学生に就職に関する説明をしてくださる経営者もいらしたとか。「開講前は"渋谷まで講義のために出向く学生などいない"という声もありましたが、蓋を開けてみると毎回満席。企業側も意欲ある学生と接することができるというメリットがあります。一方通行ではなく、双方にメリットのある講義にするのが理想ですね」

鈴木教授は現職就任当初から「日本の若者を元気にしたい」という思いを強くお持ちだったとか。「大学は単位を取りに来る場所ではなく、本当に学びたい講義を受け、成長するための場。この理想に少しでも近づくことができれば」と笑顔で語って下さいました。

「TCU QUARTERLY No.180 2011.7 pp. 2-3」

この特別講義は鈴木先生が 2013 年度に教授退任された後も継続し、2014 年度で 4 回となりました。

本冊子は、これまでの講義プログラムを掲載すると共に、2014 年度講義についての受講学生の感想をまとめたものです。

この感想を読むと講義の雰囲気や雰囲気が彷彿としてくるのではないのでしょうか。それと共に、本学学生が自分の進路をどう考えているのか、社会をどう見ているのかの一端も感じられると思います。

また、本特別講義の大きな特徴である卒業生受講者による座談会を掲載致しました。社会人から見た感想やアドバイスも活かして、更に面白く価値有る特別講義にしていきたいと思います。

Contents

3 | グローバル社会における経営システム工学科

東京都市大学 知識工学部 経営システム工学科
主任教授 横山 真一郎

4 | 特別講義趣旨

東京都市大学 知識工学部 経営システム工学科
教授 松崎 吉衛

講義プログラム

- 7 | 第1回 (2011年度)
- 8 | 第2回 (2012年度)
- 9 | 第3回 (2013年度)
- 10 | 第4回 (2014年度)

第4回講義の抜粋と受講生の感想

- 12 | グローバル社会におけるICT企業のビジネスモデルと経営課題
磯村 康典 氏 (H5機械)
デジタルポスト(株) 代表取締役社長, Oakキャピタル(株) 投資事業本部 執行役員
- 16 | 日本の電機業界の進路とグローバル経営
佐藤 文昭 氏 (S56機械)
元 メリルリンチ日本証券(株) 副会長, 現 (株)産業創成アドバイザー 代表取締役
- 20 | サービス産業の歴史とグローバル経営
原口 兼正 氏 (S49通信)
元 セコム(株) 社長, 現 セコム(株) 顧問 東京都市大学 客員教授
- 24 | 世界で活躍する人の人間力の鍛え方
鈴木 威一 氏 (S41通信)
元 オランダPHILIPS 副社長, 現 (株)エグゼック 取締役会長
- 28 | ソーシャルディスラプトの時代 ~オールアバウトの戦略とグローバル展開~
江幡 哲也 氏 (S62電気)
(株)オールアバウト 代表取締役社長
- 32 | アップル対サムスン訴訟にみる米国陪審員裁判の特殊性
服部 健一 氏 (S41機械)
Westerman, Hattori, Daniels & Adrian, LLP Senior Partner 米国特許弁護士・法務博士・日本弁理士
- 36 | 卒業生受講者からのメッセージ

第1回 (2011年度)

1. 4/12

学生向けガイダンス
グローバル社会における経営の意味



鈴木 威一氏 (S41通信)
元 PHILIPS 副社長
現 東京都市大学 経営システム工学科 教授

2. 4/19

All Aboutのご紹介と
グローバル(中国)展開について



江幡 哲也氏 (S62電気)
(株)オールアバウト 社長

3. 5/10

新規事業展開と
中国企業との提携戦略について



鈴木 浩二氏 (S39経営)
元 (株)トプコン 社長
現 サニージャパン(株) 社長

4. 5/24

セコムの歴史と海外を含む事業展開



原口 兼正氏 (S49通信)
元 セコム(株) 社長
現 セコム(株) 副会長

5. 6/7

グローバルカンパニーとは
～コーニングの事例紹介～



三背 彰壽氏 (S53経営)
コーニングジャパン(株) 社長

6. 6/21

ICTによるビジネス・イノベーション



佐藤 正春氏 (S46経営)
(株)富士通総研 社長

7. 7/5

日本的経営とグローバル資本主義
～日本の大手電機メーカーの本質的課題と対策～



佐藤 文昭氏 (S56機械)
元 メリルリンチ日本証券(株) 副会長
現 (株)産業創成アドバイザー 社長

8. 7/19

グローバル社会における経営
まとめ



鈴木 威一氏 (S41通信)

(※組織名・肩書きは講義当時のものです)



第2回 (2012年度)

1. 4/10

学生向けガイダンス
グローバル社会における経営の意味



鈴木 威一氏 (S41通信)
元 PHILIPS 副社長
現 東京都市大学 経営システム工学科 教授

2. 4/17

セブン&アイHLDGS.の成長戦略
～ ネット戦略とグローバル戦略 ～



鈴木 康弘氏 (S62電気)
(株)セブンネットショッピング 代表取締役社長

3. 5/8

世界中に大地がある限り



増田 文彦氏 (S59土木)
タマホーム(株) 専務取締役

4. 5/22

日本の製品開発・製造業の未来



南川 明氏 (S57電気)
アイサプライ・ジャパン(株) 副社長

5. 6/5

地質コンサルタント企業の発展史と
国際化への道のり



田矢 盛之氏 (S41土木)
元 応用地質(株) 代表取締役社長
現 応用地質(株) 最高顧問

6. 6/19

40才で渡米
50才で米国法律事務所を起業



服部 健一氏 (S41機械)
Westerman, Hattori, Daniels & Adrian, LLP
Senior Partner 米国特許弁護士・法務博士・日本弁理士

7. 7/3

"グローバルに挑戦する"
世界に通用する戦略を実行する



鈴木 威一氏 (S41通信)

8. 7/17

グローバル社会における経営
まとめ



鈴木 威一氏 (S41通信)

(※組織名・肩書きは講義当時のものです)



第3回 (2013年度)

1. 4/16

学生向けガイダンス
グローバル社会における経営の意味



鈴木 威一氏 (S41通信)
元 PHILIPS 副社長
現 東京都市大学 経営システム工学科 教授

2. 4/23

グローバル社会における
コミュニケーションとネゴシエーション



山田 直朝氏 (S40経営)
(株)木更津ゴルフ倶楽部 代表取締役

3. 5/7

ホテルオークラの総支配人の条件



小川 矩良氏 (S45機械)
(株)ホテルオークラ東京 取締役会長

4. 5/21

モノでモノが売れるモノづくり



中村 晋氏 (S45機械)
古河機械金属(株) 常務取締役

5. 6/4

偽物から本物へ ～ 産業普及の足跡 ～



向出 靖弘氏 (S38機械)
油研工業(株) 取締役会長

6. 6/18

経営陣の視点と、
その環境下での仕事のやり方



中川 洋一氏 (S48通信)
SEMI Japan 代表取締役

7. 7/2

あなたが、グローバル時代で
活躍するために



佐藤 興一氏 (S51通信)
セコム(株) 取締役副社長

8. 7/16

スモールベンチャー
米国進出へのチャレンジ



押部 弘氏 (S54機械)
(株)東設 代表取締役社長

(※組織名・肩書きは講義当時のものです)



第4回 (2014年度)

1. 9/23

学生向けガイダンス
グローバル経営の課題



松崎吉衛氏

元 (株)日立製作所 理事 日立金属(株) 事業役員
現 東京都市大学 経営システム工学科 教授

2. 9/30

グローバル社会におけるICT企業の
ビジネスモデルと経営課題



磯村康典氏 (H5機械)

デジタルポスト(株) 代表取締役社長
Oakキャピタル(株) 投資事業本部 執行役員

3. 10/14

日本の電機業界の進路とグローバル経営



佐藤文昭氏 (S56機械)

元 メリルリンチ日本証券(株) 副会長
現 (株)産業創成アドバイザー 代表取締役

4. 10/28

サービス産業の歴史とグローバル経営



原口兼正氏 (S49通信)

元 セコム(株) 社長
現 セコム(株) 顧問 東京都市大学 客員教授

5. 11/11

世界で活躍する人の人間力の鍛え方



鈴木威一氏 (S41通信)

元 オランダPHILIPS 副社長
現 (株)エグゼック 取締役会長

6. 11/25

ソーシャルディスラプトの時代
～オールアバウトの戦略とグローバル展開～



江幡哲也氏 (S62電気)

(株)オールアバウト 代表取締役社長

7. 12/9

アップル対サムスン訴訟にみる
米国陪審員裁判の特殊性



服部健一氏 (S41機械)

Westerman, Hattori, Daniels & Adrian, LLP
Senior Partner 米国特許弁護士・法務博士・日本弁理士

8. 1/13

学生向けまとめ・レポート



松崎吉衛氏

(※組織名・肩書きは講義当時のものです)





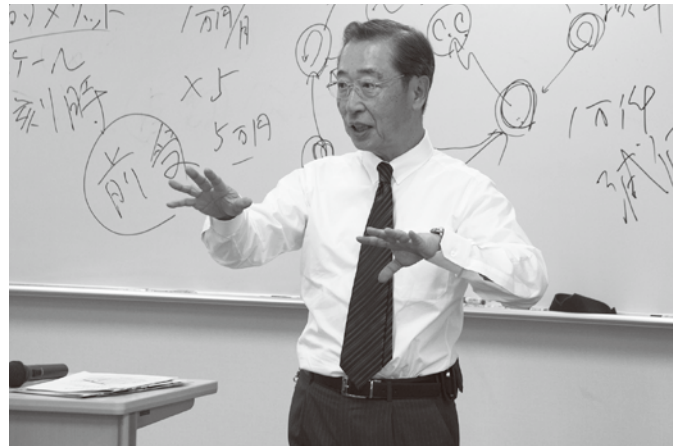
卒業生と在校生の自己紹介



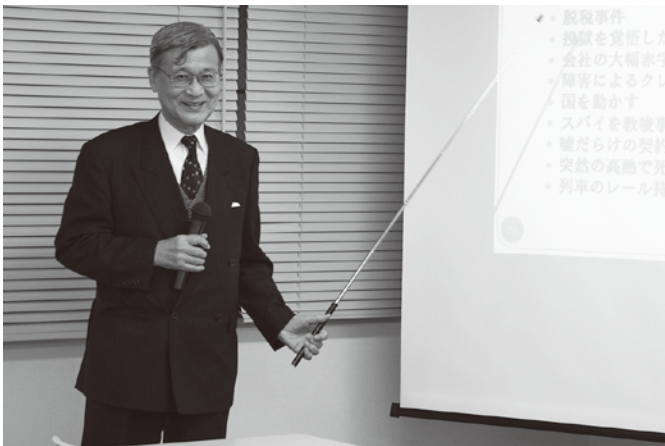
磯村康典氏による講演



佐藤文昭氏による講演



原口兼正氏による講義



鈴木威一氏による講義



江幡哲也氏による講義



服部健一氏による講義



社会人受講者へ修了証書を授与



グローバル社会におけるICT企業のビジネスモデルと経営課題

デジタルポスト(株) 代表取締役社長, Oakキャピタル(株) 投資事業本部 執行役員

磯村 康典 氏 (H5機械)



磯村康典氏による講演

プロフィール：

- ・ 1993年 武蔵工業大学（現 東京都市大学）工学部機械工学科卒
- ・ 同年 富士通(株) 入社
- ・ 2000年 ソフトバンク(株)(現ソフトバンクグループ)入社 イー・ショッピング・インフォメーション(株)（現ソフトバンク）出向
- ・ 2002年 イー・ショッピング・ブックス(株)（現セブン&アイ・ネットメディア）転籍
- ・ 2007年 (株)日テレ7 出向
- ・ 2008年 (株)ガルフネット 開発本部長 常務執行役員
- ・ 2012年 Oakキャピタル(株) 事業戦略室 執行役員
- ・ 2013年 デジタルポスト(株) 代表取締役社長（現職）
- ・ 2014年 Oakキャピタル(株) 事業投資部長 執行役員（現職）
- ・ 2015年 クリストフルジャパン(株) 取締役（現職）
軽井沢エフエム放送(株) 取締役（現職）



難しい経営課題を質疑を通じて理解



卒業生受講者から在校生へのアドバイス

講義の概要

- ・ 大手ICT企業からネット企業を経てインベストメント・バンキング事業に至るキャリアにおいて、繋がっていたこと、新たな挑戦が必要だったこと。
- ・ 一口にICT企業といっても事業分野は様々であり（幅広い事業を抱える総合メーカー～システムインテグレータ～携帯電話などの通信キャリア～クラウド企業～ネット販売～情報提供企業など）、多様性が拡大し新たな事業が次々と生まれている。
- ・ ハイコストの日本で競争力有る人材となるために必要なこと（創造力、企画力など）。
- ・ ICT企業のグローバル化は、海外での販売、海外でのプログラム・システム開発、海外のお客さまへのサービス、海外での事業資金の調達など、様々な分野がある。
- ・ 日本のICT企業が今後発展していくためにやらねばならないこと。

受講生の感想： テーマ “学んだこと、興味を持ったこと”

経営システム工学科 2年 男子

今回はめったに聞けない経営トップの話を聞いて、とても心に残る内容でした。

「今までで一番心配したことはなんですか？」と聞いたら、「病気の社員が出た時」という答えを聞き、他人にもしっかり気を配る姿勢を持つことがリーダーの能力として必要なものだと考えました。

またビジネスの心構えとして

1. 自分を何がしたいを常に考えて続けること
2. やりたいことが見つからない時は与えられた機会にチャレンジする
3. できない理由を考えるのはやめて、出来るためにどうするか考える
4. 尊敬する人や目標にする人を自分自身と比較する感覚をもつ
5. 世の中は常に変化している。安定しようとするとは逆に不安定になる。変化に対応をする心構えが必要

とおっしゃっていたので、この心構えを参考にしていきたいと思いました。

経営システム工学科 2年 女子

「やりたいことが見つからないときは、与えられた機会にチャレンジしてみる」というのは、今の自分に当てはまることだと思いました。履修を考えるときに、せっかく今学べることがあるのだから学んでみようと考えようになりました。

5つあげられた心構えの中でも、「できない理由を考えるのではなく、できるためにはどうすればよいか考えること」というのは、今回聞くことができて良かったと思ったことの一つです。何事においても、私はなぜできなかったのだろうかと考えてしまっていたので、これをきっかけに考え方が変わりました。勉強に関するだけでなく、人をまとめるときに、なぜ伝わらないのだろうかと思うのではなく、どうしたらきちんと伝わるだろうか、と考えるようになりました。この考えを根本においておけば、自分のビジネスのためだけでなく、人とも接しやすくなるのではないかと思います。

また、「尊敬、目標とする人を持ち、自分自身と比較する感覚を持つこと」ということも、今の自分にはなかったことだと感じました。その人をすごいと思って終わるのではなく、その人ようになるにはどうしたらいいかを、常に考えるようにし、将来に向けていけたらと思います。

今をただ満足しながら生活するのではなく、将来何

かの仕事に就いた時にビジネスの心構えが備わっている人間になれるよう、今から考えていこうと思いました。

経営システム工学科 2年 男子

様々な企業に転職をすることで様々な経験をしたという話をしてくださった。

大手ICT企業では、社会人としての基本やビジネスマナーを教えてもらったということであった。ベンチャー企業では、上記のようなことを新人にしっかり教える余裕はないらしい。つまり社会人として初めて入る企業としては、大企業の方が社会人としての基本を叩き込まれるという意味では良いと考えられる。

次に移ったプロバイダ企業では、新しい事業を創る感覚を学んだという話をしてくださった。

ベンチャー企業の場合、自分で企業の売り上げをどうやって上げるかを考えるため、事業に貢献できた達成感が大きく、企業における自分の居場所を感じやすいという意味で、自分自身の生活に張り合いができ、忙しい中でも人生が楽しくなると考えられる。

講師は様々な職種を経験されており、ネット技術から小売り・流通の基本や業務執行の基本を学んだという話をしてくださった。

また、金融業界やTV業界も経験され、自分の苦手な仕事も経験することで、視野も広がったという話をされた。

私は、様々な職種を経験することは、自分自身を高めるために重要なことだと考えており、社会に出たら、技術部門だけ、あるいは営業部門だけを経験するのではなく、どちらも経験したいと考えている。

講師は、とても経験豊富な方で、ICT関連の仕事などに関してあまり知識のない私でしたが、ICT業界マップや、経営、就職などためになる話をたくさんしていただきました。



2014.09.30

受講生の感想： テーマ “学んだこと、興味を持ったこと”

経営システム工学科 2年 男子

私は、企業に入ったときや転職・起業する際に必要な考え方について述べたいと思う。

講師は経験豊富で、少年時代はピアノやそろばん、技術分野は機械系からICT系、転職・起業をされており、多彩な経験をなさっている。この多彩な経験により、様々な状況に強く柔軟に対応できるのではないかと考えた。

次にビジネスへの考え方について講義を聴いていて感じたことを述べたいと思う。特に感銘を受けた3つのことについて意見を述べたいと思う。

1つ目は「小売の基本」の話だ。「小売の基本は？」という質問に対し、「雨が降ったら傘を出せ」という話を聞いた時、なるほどと感銘を受けた。この話は、ビジネスにおいて人の気持ちを考えられるかどうかを端的に表している。雨が降ったら人はどう思うか。これが分からなければ小売ができないわけで、根本には人の気持ちを考えられるか、どうやって社会に貢献するかを常日頃から考えていくのが大事なことなのだと考えた。

2つ目は、ビジネスへの心構えについて5つ上げていたことで、私が特に感銘を受けたのは5つ目の「世の中は絶えず変化しており、自分だけ安定しようとする不安定になる。柔軟な姿勢を持つこと。」という心構えだ。私は将来何らかの事業を興し経営者になりたいが、同時によい家庭も作りたいたいと思っている。しかしこの2つは二律背反だと思っていた。私は将来経営者になるために必要なことは何かを考えながら、必要な分野について勉強し、能動的に吸収できるものは吸収する考え方で生きている。ここでの問題は、起業ないしは転職は生活が安定しないことである。だが、講師の「世の中は絶えず変化しており、自分だけ安定しようとする不安定になる。柔軟な姿勢を持つこと。」という心構えを聞いたとき、こういう考え方があったのかと衝撃を受けた。この考え方であれば経営者とよい家庭は両立できるのではないかと考えた。

3つ目は所属している団体のリーダーになれという話だ。リーダーはその物事について、常日頃から考えているから、新しいアイデアが生まれ、その事業が発展する。所属しているものについて人生に関係ないからと本気にならない考え方を破壊しなければならない。私は今あるものを大事にし、全力で取り組んで行こうと思う。

経営システム工学科 2年 男子

講師は、大手 ICT 企業に入社してから現在に至るまで非常に様々な仕事を体験されています。講義を受ける前まで、私は社会に出て、ある程度相性の良い仕事につけたなら、そこで努力し上の役職へと昇格していく、そういった働き方をしたほうが安定した生活を送れるのではないかと考えていました。

しかし、講義後、私の考えは180度変わりました。講師は様々な仕事をこなされています。はじめは「こんなに職を変えることに何かメリットはあるのか?」「移動した先の会社でうまくいかないリスクはないのか?」といった疑問を強く抱いていました。しかし講師は、「世の中は絶えず変化している。その中で安定を求めるとすれば、世の中の変化に対応して自分自身も変わっていかなければならない」といった内容のことをおっしゃっていました。

また、講義後にお聞きした内容で非常に心に残っているものが、二つあります。

一つ目は、大学では機械を学び、ICT企業から経営の世界に出て、金融関係の仕事や広告に関する仕事など、その都度一から勉強してできるようになっていったということです。

二つ目は、講師は面接の際は目を見る、企業への投資を決める時もトップの目を見て判断する、とおっしゃっていました。会社において事業やプロジェクトを起す際、上司は、「やりたい、自分にやらせてほしい」というオーラを感じ取って仕事を任せてくれるそうです。つまり、常にハングリー精神を持って行動していれば、仕事をプラスに持っていける可能性があるということです。

目を見てこいつならやれるぞと思ってもらえるような意欲のある人間になれるよう自分を磨いていきたいと思いました。

経営システム工学科 3年 男子

「成功するまでやめない、そうすれば失敗はない。」と言われた言葉が、1番自分の中に残りました。

私は何かチャレンジしようとしても、壁にぶつかると逃げる時が多くありました。何回かそのような事を繰り返している間に、私はチャレンジすることから逃げるようになってしまいました。

私は人と違う観点から物を見ることにチャレンジし続けていきたいと感じました。

受講生の感想： テーマ “学んだこと、興味を持ったこと”

経営システム工学科 2年 女子

私が今回の講義を聞いて特に考えさせられたことは、「ICT 企業のグローバル化」についてです。ICT 企業のグローバル化においては、販売拠点・生産拠点・サービス拠点・金融拠点のグローバル化が挙げられます。

講義でも少しお話があったように、私も日本の ICT 企業はグローバル化が遅れていると考えます。

1 つ目に、日本は島国であり、他国との交流が極端に少なく、グローバル化についての意識が薄いことがその背景にあると思います。

2 つ目に、言語の壁もグローバル化できていない理由の 1 つにあるように思います。日本は海外と比べて、外国語教育があまり進んでいません。海外では母国語に加え英語、第 3 外国語を学習するのが一般的です。しかし、日本の外国語教育では、英語を学習するのでもさえも精一杯で、さらには海外で通用するレベルの英語力を学校で得ようとするのも困難であると思います。外国人との交流が少ないだけで、こんなにも外国語教育に影響が及ぼされていることに改めて気づかされました。

島国であることに多くの良いところもあるとは思いますが、グローバル化という観点で言えば、島国であることによって生じる問題が多くあるように感じました。そして、日本人の特徴であるおもてなしの精神や性格、丁寧さ、勤勉性などもグローバル化に影響を与えていると思います。日本人は几帳面な人が多く、製品などをつくる上でもとても丁寧です。品質で海外と勝負したならば、日本の製品は優位であると思います。しかしながら、丁寧すぎるゆえに完璧を求めすぎてしまうことや、海外の動向などを見落としてしまいがちであること、これによってグローバル化が遅れてしまっているのではないかと思います。

日本や日本人には多くの良いところがありますが、その良さを活かしつつ、弱点を克服し、グローバルな考えも視野に入れることで、より大きな日本の飛躍・発展につながるのではないかと私は考えます。

ビジネスへの心構えなども教えていただき、これからの大学生活をどのように過ごすのかを考えさせられました。『「できない理由を考える」のではなく、「できるためにどうすればよいか」を考えること。』この言葉はとても私の胸に響き、これからも大事にしていきたいと思っています。

経営システム工学科 2年 男子

社会で活躍したり結果をだしている人は必ず何かしらの自分の軸というものを持っていると思っており、今回のこの特別講義で、社会で成果を挙げられている方の軸を知ることができて良かった。アルバイトや大学生活などしている中で自分がどういう人間で何が得意で何が苦手なのかを深く考えているので、そういうことは継続していき大学を卒業するまでに自分の「軸」を作っていきたい。

そのために今回の講義で学ばせていただいた「自分は何を目指したいのか」を常に考え続けること、「できない理由を考えるのではなくできるようにするためにはどうすればよいか」という部分を大切にしていきたい。

あと 2 年と少しで社会に出て、このような先輩たちと一緒に仕事をしていくと考えると自分に足りないものが多すぎるので、残りの大学生活でしっかりと自分を高めていかないといけない、ということを経験した。今回の特別講義で感じました。

経営システム工学科 3年 男子

講師の大学時代から今に至る過程は、とても予想できない幅広さだと感じた。全てに言えることは、常に自分が何をしたいか、どのような位置に置かれているかを考え、また目の前に与えられたものを自分のものにして、着実にこなしてきた結果であると思った。常にクリエイティブで視野を広くしたいと感じた。

また印象に残ったことは、学生の質問に対して、同じ目線で丁寧に一つ一つ答える姿です。自分も、常に親切に One to One の気持ちを持ちたいと思った。

最後の「どのような人材がほしいですか」という質問に、「企画力、行動力のある人です。」という言葉がありました。そんな人になれることを心において行動していきたいです。



2014.09.30



日本の電機業界の進路とグローバル経営

元 メリルリンチ日本証券(株) 副会長, 現 (株)産業創成アドバイザー 代表取締役

佐藤 文昭 氏 (S56機械)



佐藤文昭氏による講演

プロフィール：

- ・ 1981年 武蔵工業大学(現 東京都市大学) 工学部機械工学科卒
- ・ 同年 日本ビクター(株)に入社、7年間にわたりビデオの研究開発に従事
- ・ 1988年 証券アナリストに転じ、日本勧業角丸証券、スミスバーニー証券を経て、1998年から9年間ドイツ証券で調査本部長兼電機全般および半導体アナリストとして業界や企業分析を担当
- ・ その間、1999年にITバブル崩壊を予想し、2000年から6年間連続で日経新聞の総合アナリスト・ランキングで1位、およびインスティテューショナル・インベスター誌でもトップ・アナリストにランク
- ・ 2007年 メリルリンチ日本証券に移籍。副会長兼投資銀行部門マネージング・ディレクターとして電機・半導体・通信業界の業界再編やM&A関連に従事
- ・ 2009年 (株)産業創成アドバイザーを創設し、中小型液晶パネル3社統合などを手がける。著書に『日本の電機産業 再編へのシナリオ』(かんき出版)



熱心に先輩経営者の講義に聞き入る受講生



教員も白熱討論に参加

講義の概要

- ・ エレクトロニクス機器の開発者としてスタートし、技術経営のバックグラウンドを持った証券アナリスト、更に日本のエレクトロニクス産業の再構成を仕掛けるに至るキャリア。
- ・ 自分の強みを考え、新たな差別化を持続する方法。
- ・ 日本の製造業の中でも、電機産業の収益力が低い現状の分析。
- ・ 日本の電機産業が、優秀な人材と技術蓄積がありながら、国際競争力を弱めた原因：過当競争、総合メーカーゆえの意思決定の遅さ、欧米およびアジアのコンペティターとのポジショニングのまざさ、人材と技術の海外流出、他。
- ・ エレクトロニクス産業再生への施策：業界としてのあるべき姿のデザインとステークホルダーのコーディネート。

受講生の感想： テーマ “自分の強み・都市大の強み”

経営システム工学科 3年 男子

私は、よくマイペースだと言われることが多いです。それを逆に利用してやろうと思います。

つまり、マイペースというのは良い意味でとらえると、他の人や環境に影響されないということだと思います。もちろんやらなければいけないことや、やらなければ誰かに迷惑をかけることもあると思います。そういうことはしっかりと行っただうで、独創性という観点で、他の人や環境に影響されることなく仕事をしていこうと思います。他の人が思いつかないようなアイデアや発想を考えていきたいです。

今回の話は、正直自分の勉強不足のせいで難しいと感じることが多かったです。

ITバブルの崩壊を予測できたり、外資の最先端を長年走り続けてらしたというのは、きっと精神的にも肉体的にも並大抵のものではできないと思います。自分は投資に興味はありますが、そんなに分析もできないので、きっと損害を出すと思います。だからこそ今後の行く末がどうなるのかをもっと詳しく知りたいと思いました。今度は勉強不足にならないようにしっかりと予習していきたいと思っています。

経営システム工学科 3年 女子

私は、頭がとてもしっかりというわけではありません。ですが、私は、毎日生きていく中で気を付けていることや、これだけはちゃんとしていこうと思っていることがあります。

私は、大学に入学してサークルに入りませんでした。ワイワイガヤガヤ大学生らしい生活を送りたくなかったというわけではありません。むしろサークルに入りたくて仕方がありませんでした。ですが、タイミングを逃し入るに入れずの状態でした。このままでは、何もせずなんとなく毎日を過ごしなんとなく終わってしまうのではないかと思うと怖くなりました。そこで、何か変わらなくてはならないと思ったのです。そして始めたのが、短期留学とアルバイトでした。私は、映画館とコーヒー店でアルバイトをしています。どちらも自分がしたいと思ったアルバイトでした。お小遣い稼ぎをしたかったからというわけではありませんでした。何か大学生活の中で得るものはないかと考え行動しました。

短期留学も学生のうちにしかできないことだと考え、ロサンゼルスに1か月行きました。世界は、こんなにも広いのかと実感しました。

そこで、私の強みについて考えたときに、私の強みは行動力と向上心と素直さとなんでも楽しむことができ

ることだと思います。多くの経験をしたい。今していることから、自分が学べることは何かについて考えます。そしてとりあえず行動します。行動すると必ずと言っていいほど失敗をします。そこで、素直に相手の話を聞きもっと良くするにはどのようにすればいいのか、そして相手を尊敬することでまっすぐに話しを聞くことができます。ゆっくりですが確実に前に進み、好きなことをまっすぐに頑張れる。自分がしたいことを見つけ自分がしたいことにまっすぐ挑戦し、何事も挫折しながらも、楽しむことができる。それが私の強みだと思います。

経営システム工学科 3年 女子

コミュニケーション能力に強みを持つ人間になりたいと考えています。私は人と接する時は話しやすい空間になるように、常に笑顔を意識するよう心がけています。誰だって無愛想な人とは話づらいと思いますし、笑顔でいれば相手もリラックスして会話もできると思うからです。

そして今後は国籍を問わず、さまざまな方と交流できるようにしたいと考えています。そのため、英語に力を入れて勉強し、コミュニケーション能力をさらにつけていけるようにしたいと思います。

経営システム工学科 2年 女子

“汗をかかずして儲けることを良しとしない” 日本文化の中で、日本が本当に金融立国を目指せるのか！ という話がとても興味深かったです。日本のものづくりの強さを大切にしていきたいと思いました。日本の技術の高さを維持、向上していくことに貢献するため、この大学で知識をつけていけたらと考えています。

大学生のうちにできることを、何事でもチャレンジしていきたいです。その中で人脈を作りつつ、いろいろな人の話を聞いていけたらと思います。今できることを常に挑戦していきたいです。



2014.10.14

受講生の感想： テーマ “自分の強み・都市大の強み”

経営システム工学科 2年 女子

講義の中で、コンプレックスをコンプレックスのままにしないとありましたが、そこは東京都市大学の生徒としてそうでなければならぬと思いました。

共通して先輩方のお話にはマイナスの言葉が全くありませんでした。自分に足りないことも失敗も良しとして次に向かっていくし、行動力があるなと思いました。

経営システム工学科 3年 男子

今、勉強している都市大学は旧武蔵工業大学のブランドと教育を受け継いだ、伝統のある工業大学であると、肌で感じています。その例として、今回の特別講義のように卒業生の方々に来ていただいて、実際に企業で経験したこと感じたことを在学中にたくさん聞かせていただく環境があるということは学生にとってとても有益なことで、この大学の強みであると思います。それは長きに渡って、大学全体として、教育にたくさんの努力を注いできた証だと思います。

この伝統こそが、大学の強みであって、誇らしいことであると思います。この強みを発信して、より多くの学生に知っていただき、大学が今後もより発展して欲しいと思っています。

経営システム工学科 3年 男子

都市大は幅広い分野で活躍出来る人間を育てることに強みを持った大学にしたいと思います。

また海外で本当に活躍できる人材育成の出来る大学にしたいと思います。海外の人をまとめられるような語学力、現場のやっていることを教えられるような技術力、海外の取引相手と対等に戦えるコミュニケーション力。これ以外にも必要な能力を学べて、身に付けられるような大学にしたいです。

今回の講義はとてもよく分かりました。日本でこれから起こりそうな事や、日本の進んでいくべき道や、過去の出来事を分り易く学べました。日本の電機業界が陥ってしまった問題を知りませんでした。自動車業界はうまく欧米とケンカしないで業界の規模を広げていったことも理解できました。今後伸びる業界を他人と違う目線で見たいと思いました。

経営システム工学科 2年 女子

誰よりも我慢強い人間になりたいです。私たちの世代はゆとり世代と呼ばれる世代であり、大人の人からはゆとり世代は怒られるとすぐやめるなど根性が無いよう

に思われがちです。だからこういうことは言われぬようにしたいし、多少のことで怒られても、怒ってくれるうちは花という言葉にもあるように怒ってくれる人に感謝しなければと思います。怒られて成長できることもあると思います。嫌なことを我慢しすぎるのはよくないと思うけど周りに感謝して思いやりのある人になれば周りとの人間関係もうまくいくことが多いのではないかと思います。

経営システム工学科 3年 男子

東京都市大学は前身である武蔵工業大学、武蔵工業専門学校などの時代を含め、創立 85 周年を迎えている。2009 年に「東京都市大学」へ校名変更するまでは、工学教育を専門としてきた。人間科学部をはじめとする工学以外の分野の学部もあるが、学部ごとの在校生の比率などから工学系の学部が主体となる大学といってもよいであろう。工学系の大学で東京都市大学と並んで考えるとすれば、「東京 4 理工」と呼ばれている大学の中での強みは何であろうかということになると思う。

東京都市大学では 2015 年度入学生から「東京都市大学オーストラリアプログラム：TAP」が始まる。これはグローバル化に対応するための教育である(グローバル教育)と思う。しかし、東京都市大学が「グローバル教育」で差別化できる大学になれるかという点と厳しいと思う。先に挙げた東京 4 理工の中には、グローバルエンジニア学部が設置されていたり、「スーパーグローバル大学創生支援」に採択されている大学がある。「グローバル教育」だけでは差別化できないと思う。

では何を強みにすれば良いのかと考えると、私は「企業や社会との連携」であると思う。創立 85 年の伝統や上場企業の社長や役員に多くの OB を輩出していることから「企業との連携(産学連携)」という強みを持った大学になっていったらよいと思う。



受講生の感想： テーマ “自分の強み・都市大の強み”

経営システム工学科 3年 男子

人間関係に強みを持つ人間になりたいと思います。今まで講演してくださった先生たち、身の回りにいる先輩方、だれを見てもすごいと思う人は、みんな人脈の広い方で人とのつながりを大切にしている人たちばかりだと思ったので、そういう人間になりたいと思いました。

今はサッカー部、サークルなど他大学や様々なお世話になっている社会人の方など普通の大学生では関わることのない人たちともかかわる機会があり、とても恵まれた環境にいると思うので、これからも大切にしたいと思います。

経営システム工学科 2年 女子

私は語学に秀でた人間を目指したいと思っています。経営システム工学科に所属していながらも PC に対して知識も少なく、どちらかと言えば機械全般に弱いです。周囲の人間と比較したときに自分だったら何を武器にできるのか。

それを考えたときに 1 番に思いついたのは語学でした。私は昔から勉強することに苦はなく、むしろ自ら進んで勉強していました。それに伴い、高校在学時に行った修学旅行でのアメリカホームステイや海外経験で外国語に強い関心を持ちました。そして海外が大好きになりました。ですから、外国語を勉強することも苦ではありません。

強みにするには、自分が好きなことであり、かつ努力を怠らないことが必要になってくるのではないかと思います。他者と差別化するために、多くのことを習得するという手段もあるとは思いますが、1 つのことを極めて他者に負けない強みを作りたいと考えます。経営システム工学科としての技術もある程度身に付けながら語学を磨き、グローバルな世界でも通用するようなレベルまでもっていきたいと思っています。

都市大が就活などにより強くなるために 1 番大切なことは、学生自身が変わっていかなければならないということです。大学でのカリキュラムなども大切だとは思いますが、自分自身がどのように大学生活を過ごすのか、どのようなモチベーションで大学に通うのか、目的意識をもって勉学に励めるか、などがとても重要になってきます。いくら大学が援助したとしても、学生にやる気がなければ意味がありません。そのためには大学からのさりげない心遣いや手助けも必要になってくるのではないかと考えます。

経営システム工学科 2年 女子

私はオープンキャンパスで見た、経営システム工学科の研究内容についてとても興味を持ったので、都市大に入りました。都市大では自分の興味のある分野を伸ばしていける勉強がしたいと思います。

そういった興味のある分野の力を伸ばしていける事が強みの大学になったらいいなと思います。興味のある分野の勉強をできることによって就職活動においても自分について説明しやすくなり、それが就職率をさらに上げることににつながるのではないかと思います。

経営システム工学科 3年 男子

都市大は、クォータ制も導入して留学のしやすさなどでほかとの差別化を図ろうとしていると思う。実際に留学もし易くなりより海外志向の高い学生を集めることが出来ると思う。

しかし研究施設や、上記で示した内容では、ほかの大学と明らかな差をつけることは難しいと思う。

そこで理系の都市大がどこでほかの大学と差をつければ良いかということ、全国の理系女子を集めるぐらいの女子のための施設開発などを進めていくのが良いと思う。「リケ女」という言葉があるように、理系の女子はとても重宝されていると思う。そこで理系女子にターゲットを絞っていくことでもっと活発な大学になると思う。理系大学の中で女子の比率がほかと比べて圧倒的に高いとなれば、男子の受験者数も、自然と増えてくると思う。女性の就活という面での支援の充実なども戦略の一つとしてはありだと思う。

講師から、自分は社会に出たとき劣等感を持っていたという話を聞いて、私も人に比べて劣等感が強く、しかし劣等感があるから努力できると考えているので「劣等感を持ちながら常に上を目指す」という言葉はすごく共感でき、自分は間違っていないと確信出来た。劣等感が強いのは決して悪いことではないと再確認できたので自分としてもいいことが聞けたと思う。



2014.10.14



サービス産業の歴史とグローバル経営

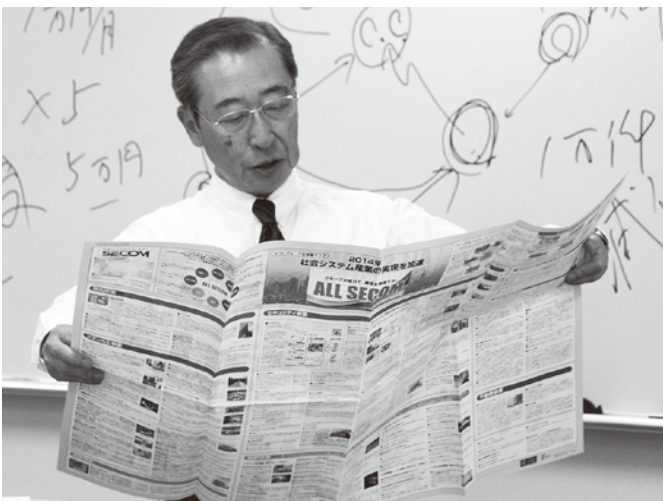
元 セコム(株) 社長, 現 セコム(株) 顧問 東京都市大学 客員教授
原口 兼正 氏 (S49通信)



原口兼正氏による講義

プロフィール:

- ・ 1974年 武蔵工業大学 (現 東京都市大学) 工学部電子通信工学科卒
 - ・ 同年 日本警備保障(株) (昭和 58 年 12 月セコム(株)に社名変更) 入社
 - ・ 1986年 システム企画室長
 - ・ 1990年 取締役
 - ・ 1995年 常務取締役
 - ・ 1997年 専務取締役
 - ・ 2002年 取締役副社長
 - ・ 2005年 代表取締役社長
 - ・ 2010年 取締役副会長
 - ・ 2013年 顧問 現在に至る
 - ・ 2014年 東京都市大学 客員教授
- 講演等
- ・ 2007年 直撃!トップの決断 (BSジャパン)
 - ・ 2008年 がっちりマンデー!! (TBS)
 - ・ 2009年 カンプリア宮殿 (テレビ東京)



サービス事業の多様性を学ぶ受講生



大学で学ぶ経営手法の意味を具体例で実感

講義の概要

- ・ 就職先企業の見方、企業選択の考え方 (急成長しそうな会社、面白そうな会社、自分を活かせるような会社)。
- ・ 日本初の警備サービス事業を創設し機械警備への進化を遂げた経営戦略 (利益の出し方、顧客戦略、投資戦略、キャッシュフロー戦略、参入に対する差別化戦略)。
- ・ 警備サービス事業における人の重要性和社員モチベーションアップ方法。
- ・ 国情に対応した警備サービス事業のグローバル展開の方法と各国での実績。
- ・ サービス事業が発展するための社会環境、新規サービス事業の発想の仕方。
- ・ セコムの事業と運営の憲法。

受講生の感想： テーマ “サービス事業のビジネスモデル”

経営システム工学科 2年 男子

セコムの事業の仕組みの中で一番すごいと思ったものは、講義の中でも説明があった「警備の事業化」です。

はじめは巡回警備を近い地域で行うことにより集約メリットを活かし、また設備投資のかからないビジネスを行ない、次に巡回警備で人件費がかかっていた所を機械化することにより人件費の削減ができ（最初の設備投資はかかるが）、さらにその機械を「売る」のではなく「貸す」ことにより利益を得るというシステムがすごく考えられているなと思いました。またその仕組みが成り立つ理由として、他の会社には無い機械警備であるという差別化をしっかり説明することにより上手くいったということも納得できた。

今回の特別講義のなかで、普段の授業で習っていることが少し出てきて、普段の勉強が社会に出て関わってくるんだなということを実感した。今回の特別講義で印象に残ったことは、付加価値の付け方、サービス業と製造業の違い、どんな買収の仕方が良いかなどのお話です。あと、人間はどんな時に悪いことをするのかなどの話もとても面白かったです。

経営システム工学科 3年 男子

初めは常駐警備から巡回警備にして密度の高い顧客を対象にすることで、効率のよい業務プロセスにし、次にそれで儲けた資金で巡回警備から機械警備へと形態を変え利益を拡大したことは、さすがだと思った。今では人件費のさほどかからない機械警備のモデルが参入障壁となり警備事業をリードできるのだと、核心に迫るところを理解できたと思う。

私がアルバイトをしている先もサービス業であるし、この世界でサービス事業の需要がなくなることはなく、私たちにとって一番身近な事業であることは間違いないと思う。

このサービス事業の問題は、一番身近で誰もが利用するため価格競争が手っ取り早い顧客獲得の手段になってしまうことだと思う。このためどんどん価格が下がり、いくら顧客を得ても、それほどの成長は見込めなくなる。これから需要が増えていく福祉の分野も、今回の授業でも言っていた通り公定価格が定められているため、それほどの成長を見込むことはできないと思う。

これからサービス業を発展させていくためには何が必要なのかと考えたとき、一番はブランド化戦略をもっと進めていくことだと思う。これからは安さで勝負ではなく、いかに企業のブランドを高めるかに重点を置いていくべきだと思う。

経営システム工学科 2年 女子

サービスは在庫がなく、日々生産日々消費と表現したことがサービスをうまく表していると感じました。

またサービス事業は、貧しい社会では発展しない。自分で全てをしてしまうからと表現されたことも納得ができ特徴だなと感じました。

成長させる上で重要なことは、自分の生活の中で自分でも出来るが、するには面倒だということに敏感になりその分野に突っ込んでいくこと。また、相手を信頼させ、自社のサービスの必要性を感じさせ続けることも重要だと感じました。

経営システム工学科 2年 女子

サービス業について、今までは接客業がサービス業だと思っていました。

しかし、サービス業にも今回の警備や、リクルートなどの就職紹介、清掃や賃貸会社など様々あるのだなと思いました。

今回のお話で興味深いと思ったことは、グローバル展開をしていくときに現地でパートナーを組んでいくという事です。セコムが警備という事業でこんなにも海外への展開が進んでいるということを知り、警備に関する日本での考えや仕組みは海外にも通用するのだなと思いました。



2014.10.28

受講生の感想： テーマ “サービス事業のビジネスモデル”

経営システム工学科 2年 女子

私は韓国に旅行に行ったときに建物の入り口に日本と同じようにセコムのシールが貼ってあって、日本だけじゃないのだと知りました。日本では誰もがセコムを知っていてあらゆる建物にセコムのマークが貼ってあるけど、海外でも同じ光景が見られると思ってなかったのでびっくりしました。また、海外進出してうまくいかない事業や会社が沢山ある中で、韓国だけではなく21の国と地域で広がっていて、すごいと思いました。

顧客のニーズに応えることが重要だと思います。ニーズに応えなければどんなにいいサービスを提供しても売れないし、消費者がどんなものを必要としているのかを考えてそのサービスをより良い状態で提供できるかを考えることがサービス事業を成長させる一つの方法だと思います。また、人と人とのつながりが重要だと思います。物の提供は人がつながらなくてもできることだけど、サービスは人の信頼関係が成り立っていないと売れないということがあるため、どんな人を営業担当にするか、営業地域の分担などが事業が成長するうえで大切なことだと思います。

経営システム工学科 3年 男子

成長させていくにはお客様の信頼を得ることが重要だと思います。サービス業の特徴は在庫ができないことということで、いかに作り出したサービスを無駄にせず商品としてお客様に届けることだと思います。

自分の会社のもてる能力と、扱い切れる顧客の量を見極めて確実に業績を伸ばしていき信頼を勝ち取ることが事業の規模を成長させていくために必要なことだと思います。

経営システム工学科 2年 女子

サービスとは、売買した後にモノが残らず、効用や満足などを提供する形のない財のことです。そのサービス事業の特徴は、売り買した後にモノが残らず生産と同時に消費されていく同時性、生産と消費を切り離すことは不可能である不可分性、品質が一定ではない不均質性・変動性、触ることができずはっきりとした形がないため商品を購入前に見たり試したりすることが不可能である無形性・非有形性、形のないものゆえ在庫にすることが不可能である消滅性などを有します。必ずしもすべてが該当するわけではありませんが、このいずれかが該当します。

サービス事業を成長させる上で、市場や顧客などの

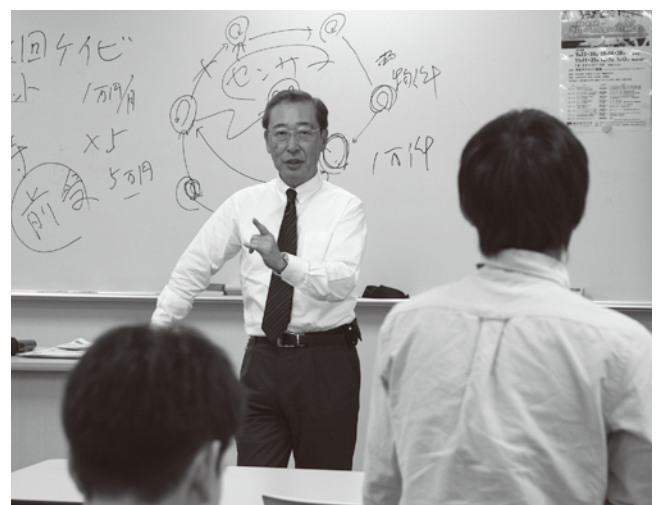
分析、ビジネスモデルやサービスシナリオの検討など、いろいろと深い検討が必要であり、どこに着目すべきかが重要だと考えます。その際に、顧客の事前期待を把握し、その期待に添えるような適合したサービス展開をすることが求められると思います。

治安が良いほど儲かり、治安が悪いほど警察の仕事になってしまうというお話にはびっくりしました。普通に考えたら治安が悪い方が儲かりそうなのに儲からないのは、治安が良い方がみんなお金を持っていて警備などにも回せるお金の余裕があるからなのかなと思いました。治安と貧困の間には、何か関連性があるのではないかと感じました。バラエティーに富んだお話で、聞いていて飽きず、とても楽しかったです。

経営システム工学科 3年 男子

サービス事業の特徴は、「実態がないこと」だと思います。例えば、モノづくりを仕事にしている人は自分の作った物があると思いますが、サービス事業はそれがないと思います。

では、どのようにすると成長するのかについてですが、僕はアルバイトで接客をやっています。そこで思うのはお客さんから見た自分がどう映っているかということが重要だということです。例えば、店では大きな声を出して笑顔で接客をするということです。店からすると作った物のほうが重要なかもしれないけれどお客さんからすればその店の印象はこういうところで決まってくると思います。だからサービス業は、基本的にお客さんを相手にするので対応は笑顔というのは重要だと思います。



受講生の感想： テーマ “サービス事業のビジネスモデル”

経営システム工学科 3年 女子

やはり海外進出についてすごいと感じました。1978年の台湾進出をはじめに、現在 21 の国と地域でセキュリティサービス事業を展開されています。セコムのセキュリティサービス事業の特徴は、「セコム方式」の緊急対応サービス付オンライン・セキュリティシステムを、進出先の国や地域の状況に合わせてカスタマイズしているところにあると考えられます。国外では、セコムが事業の運営に責任を持ち、国内と同様に「セコムブランド」の高品質なサービスを提供されています。それにより、セコムの「安全・安心」のレベルが海外からも高く評価され、着実に需要が拡大されています。

日本国内で培ったセキュリティサービスのノウハウや技術を海外へ積極的に展開していき、とても素晴らしいと感じました。現地と連携されたとおっしゃっていましたが、それまでの流れや準備や考えのすごさが成功を遂げることができた理由なのだなと思いました。

講義のはじめに、勉強に対して興味や恐れがないからしないのだ、とおっしゃっていたことがまず印象的でした。近所の中学生に今どのような勉強をしているのかを聞かれたため、事例研究のテーマとして考えている、O2O について説明したのですが、それは何?とあらゆる単語に対して聞かれた時わかりやすく説明ができませんでした。その時わたしは全部を理解してなく知識が曖昧だったことがわかりました。そのため、今回おっしゃっていたことがその通りだと思いました。

また、整備の仕事は治安が良く豊かな社会の方が需要があり、儲かるというお話に驚きました。治安が悪い方が危険も多いため警備の仕事も多いと思っていましたが逆でした。

経営システム工学科 3年 男子

サービス事業の特徴を考えるうえで、製造業と比較することで考えていきたいと思う。

製造事業では需要が多くなる時に備えてその製品（財）を作りだめをすることが出来るが、サービス事業では提供するサービス（財）を作りだめ出来ないということがサービス事業の特徴であると思う。財を作りだめ出来ないということは、需要が多くなる時には人員を多く配置しなければその需要に対応できない。少なくなる時には適切な人員を配置しないと、人件費が多くなり利益が少なくなってしまう。

また、製造事業では多くの場合で財はロボットや定型的な作業によって生産される。「財の生産力」は設備の性能やそれらをコントロールする一部の管理者の能

力として捉えることが出来る。しかし、サービス事業では財はその財を提供する人々によって生産されることが多いので、「財の生産力」は従業員の能力と捉えることが出来る。つまり、多くの財を生産するためには従業員の能力の向上が必要となる。

事業が成長していくということは、顧客満足度の高い財を提供することによって顧客を拡大することである。サービス事業を成長させるためには、顧客満足度の高い財を生産（質の高いサービスを提供）する従業員の育成にあると思う。製造事業のように決まった規格に誤差なく生産することが求められているのに対して、サービス事業では顧客の要望に沿って、マニュアルに基づきながらも臨機応変に行動することが求められてくる。

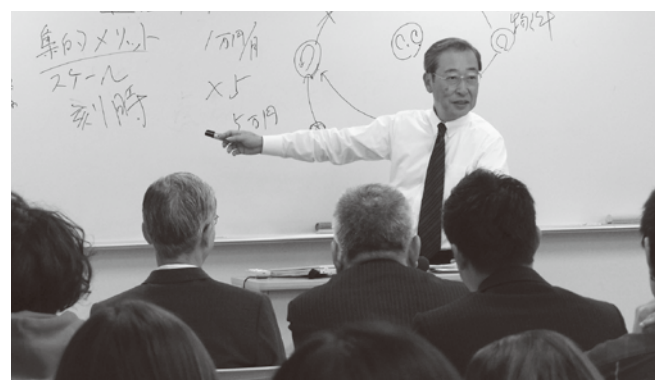
よって、「作りだめが出来ない」ことや「臨機応変に行動する」ことなどがサービス事業の特徴であり、成長させていくためには「財の生産力」を上げること、つまりは従業員の能力の向上に図るために、高いスキルを持った「従業員の育成」が重要であると思う。

経営システム工学科 2年 女子

日本で新しいサービスを始めて、広めて、信頼を得ているのがスゴイと思いました。

アメリカにあった警備会社のシステムを日本でゼロから考えてつくるのもすごいけれど、「警備」というのは信頼を得ないと任せてもらえないことだと思うので、それをサービス業としてはじめたのは本当にすごいことなのだと改めて感じました。また、警備員を全員正社員として雇い、個人の責任感やモチベーションをあげて警備のサービスの質をあげて会社の信頼につなげたという話もすごいと思いました。

会社がはじめた時の話や、事業やサービスの変化のときの話、国際化の話などわかりやすくとてもおもしろい話が多くとても楽しかったです。学校では製造業についての勉強が多いのでサービス業についての話がとても新鮮でした。サービス業のビジネスモデルを考えてみるということもやってみようと思います。



2014.10.28



世界で活躍する人の人間力の鍛え方

元 オランダPHILIPS 副社長, 現 (株)エグゼック 取締役会長
鈴木 威一 氏 (S41通信)



鈴木威一氏による講義



グローバル企業のやり方を納得いくまで質問

プロフィール：

- ・ 1966年 武蔵工業大学(現 東京都市大学)工学部電子通信工学科卒
- ・ 同年 沖電気工業(株)入社

NC装置開発・無人化事業企画、制御装置事業企画、開発、製造、販売
半導体事業企画、生産技術開発、半導体自動化企画開発、ライセンス推進

海外工場新設立上げ関係 OKI セミコンダクター(アメリカ)会社及び工場新設(生産部門立上げ責任者) フランス半導体工場立上げ2件(総責任者) OKI Thailand "半導体"(タイ王国、会社設立、その後代表取締役)

- ・ International Rectifier Far East (米国半導体) 代表取締役社長…キーアカウント制を導入した大幅売り上げ向上、品質向上のためのシステム構築など
- ・ International Rectifier (USA) Vice President
- ・ Philips Japan 電子部品事業部長…日本企業のキーアカウントを設定し重点セールス、アライアンスの実行
- ・ 要職歴任後、Philips 本社 (Netherlands) の Corporate Executive, Vice President
- ・ 株式会社エグゼクティブ・コンサルティング創業 同社代表取締役社長就任
- ・ 2006年 株式会社エグゼック 取締役会長
- ・ 2010年 東京都市大学 教授 兼 早稲田大学 大学院 講師

東京都市大学では、本特別講義を創設すると共に海外インターンシップなど、アジア、米国、欧州に渡るグローバルな経営者経験に基づく新たな施策を立上げて、学生のグローバル化を牽引

講義の概要

- ・ 世界で活躍する人は、普通の人とどこが違うか？
広い知識と専門性、プラス各国法律の知識
語学力、コミュニケーション能力、人の意見を聴く力
マナー、品格、哲学、体力、健康、他
- ・ どうしたらそんな力が付くか？
普段からの心がけ、読書、優れた人との交流
大学の聞きたい講義を受ける、自分を広げる、未知の分野に挑戦
- ・ どうしたらそんな人から学べるか？
考え観察して近づく、機会を待つ、その人に関する記事などの収集
機会を見つけて自己紹介、一言で売り込む、尊敬していることを態度で表現

受講生の感想： テーマ “グローバルに活躍するために”

経営システム工学科 3年 男子

1. 重要なこと

(1) コミュニケーション能力

これは社会にでるうえでも重要であると言えると思います。さらにグローバルに仕事をしていくうえでは、語学を補うという意味でも、それを超えたコミュニケーション能力が必要であると思います。

(2) 豊富な知識

グローバルに仕事をしていくためには、あらゆる国の文化を理解する必要があると思います。まずは自分の国、日本の文化について理解する必要があるとおもいます。

(3) 適応能力

あらゆる場面で思いがけないことが起きるかも知りません。その時に自分がどうやって行動すればいいのか考えないといけなくなります。そのためにはたくさんの人に会って、たくさんの経験をするのが重要になると思います。

2. 大学生活でやっていこうと思うこと

(1) いろいろな方に合って、たくさん話を聞いて、経験をしたいと思っています。大学の四年間という大切な時間を有効活用して、いろいろな所に足を運びたいと思います。今、私は飲食店で働かさせていただいて、たくさんの経験をさせていただいていると思います。このコミュニケーション能力という面においては同世代または年上の方であっても自信を持って負けない強みだと思っています。

(2) 大学生活の時間の中で、本を読んだり、外国の方とお話をしたり、常に学ぶ心をもっていきたいと思っています。この四年間で勉強したことはこれからの人生で財産になると思います。

(3) 後で振り返ってどのように行動、考えればよかったのか考え、先輩や経験者の方の話を聞いて、沢山のことを吸収できるように心がけていきたいと思っています。

経営システム工学科 2年 女子

今後グローバルに仕事をしていく上で重要だと思うことは、まず、日本と海外の社会構造が異なるということを理解することだと思います。日本の企業の多くは年功序列であり、終身雇用制を導入しています。しかし、海外の企業は自分の能力によって評価され、また、途中で職を変えることは珍しいことではなく、リスクはあるものの自分のやりたいことにチャレンジすることが可能です。

このような社会構造の違いを理解することによって、

どんな環境下においても上手く自分を活かすことができる方法を見出せると思います。

このような力をつけるためには、社会経験が大事だと考えます。大学生活の中で様々な業種のアルバイトを経験することで、それぞれの習慣や環境の変化に柔軟に適応できる能力や協調性を身に付けることができると思います。ですから、私は大学生という時間に余裕のあるうちに、様々な業種のアルバイトを経験し、社会経験を通して自分の強みであったり、環境の変化に適応できる能力であったり、多くのことにチャレンジしていく精神であったりを磨いていけたらいいなと感じています。

そして、なによりも、語学力は重要であると考えます。グローバルに仕事をするにあたり、言語の壁は大きく仕事に影響してきます。コミュニケーションをとる際にも、自分の考えや思いを伝えるためには語学力が必要不可欠となります。大切なことは、たとえ外国語が上手でなかったとしても、伝えようという意思を持って、恥ずかしがらずに言葉に出すということだと思います。

語学力の習得のために必要なことは、語学の学習を継続的にこなしていくことです。大学では英会話であったり、第二外国語であったり、海外インターンシップであったり、多くの海外に関する学習支援があります。せっかくこのような支援があるのだから、積極的に利用することで語学力の向上に繋がると思います。海外インターンシップにおいては、先ほど述べたことに関連してきますが、海外の環境や状況を知ることができますし、実践的に外国語を使うことで、実際に使える語学力を習得することができるのではないかと思います。

お話の中にあつた「一流を目指せ」は、私にとっても印象的でした。一流を経験することで見えてくる事は多くあると思います。自分が思う一流と、他の人が思う一流は異なると思いますが、自分の一流を設定して、それを体験し味わい、一流を知ることによって、世界で活躍するための人間力を鍛えたいと感じました。



2014.11.11

受講生の感想： テーマ “グローバルに活躍するために”

経営システム工学科 3年 女子

大事なことは、信頼関係構築（営業の場合この人から買いたいと思ってもらえるか）、語学力（自分の思ったことを発言でき、励ますこともできるようなレベル）、コミュニケーション能力、専門性、人脈、体力（健康）だと思っています。

語学力をつけていきたいと改めて感じました。私は今年の夏にインターンシップでアメリカに行ったのですが、その際自分の無力さを実感し、TOEIC を中心に勉強をしています。今回の講義を受け更に気が引き締まりました。また、人脈を広げるため、積極的に講演会などに参加し、いろんな方にご挨拶をし機会を見つけて自己紹介をしていきたいと思いました。そのためにもまず大学で名刺を作ろうと思います。

背中を押して頂いたような感覚がありました。教えていただいたことを一度に全部を始めるのではなく、1つずつ始め、徐々に増やしていきたいと思っています。海外で働いてみたいという願望もありますので、私にとってとても貴重な講義でした。

経営システム工学科 3年 男子

今後海外で仕事をするにあたって重要なことは英語力と積極性だと思う。なぜこの2点が重要だと考えるかというと、私が1ヶ月間の短期留学に行った時に重要と感じたのがこの2点だったからです。

初めに英語力は基礎中の基礎で、この力がないと会話すらまともにできず働くことなど到底できないと思います。仕事をする上では一番欠かせない力だと思う。

次に海外では外国人と働くということを想定すると、日本人は謙虚すぎてみんなの前での発表や、その仕事を自分にやらせてくれといったような積極性に欠けるのは国民性なのかもしれないが、やはりサバイバルな環境で自分から進んで仕事を貰わなきゃいけない世界では、日本人の象徴のような性格ではなかなか評価してもらえないのではないかと思います。また海外に行って英語を学ぶための場でも、英語力にかかわらずみんなに話しかけてみる積極性も大事なことだと思う。

これらの力をつけていくためには、授業や講演会などで質問や発表など人前で話す機会を多く設けることが重量だと思う。また英語力に関しては勉強するしかないと思う。

経営システム工学科 2年 男子

まずビジネスをやっていくのは人間関係を構築していくことが大事になると思うので「コミュニケーション能

力」が大切だと思います。そしてグローバルにやっていくには「コミュニケーション能力」+それに関係する「英語力」がさらに重要になっていくと思います。その前提条件として「相手と会話をしたい」という気持ちやその情熱が相手に伝える（例えばジェスチャーなどを混ぜて）ことが最も大切だと思います。

その力をつけるために、語学は毎日のようにやらないと身につかないので、自分でまずページ数の比較的少ない英字の本を買えば自分で自然に読んでいくと思いました。そして徐々にページ数のある本を読めば多読や読む力が上がるのでそのレベルまでには到達したいと思いました。

またコミュニケーションを上げるためにも自分の学校の友達だけでなく、他の学校の人も色々話をしたいと思いました。

経営システム工学科 2年 男子

英語、コミュニケーション能力、教養、専門的な知識、健康な体が重要だとおもいます。

このため、英語は毎日短時間でも継続して英語に触れ続けます。（特にリスニングやスピーキングは苦手なので大学生の間に少しでも出来るようにしたい）

コミュニケーション能力は、部活を続けていくうえでチーム意識を持ち、他の大学のサークルなどに行き他の大学の人たちとの交流を深めて高めます。

教養は、大学の授業の教養科目をしっかりと選択・受講し知識を深めていきます。専門的な知識は、経営システムの必修科目の授業をしっかり受講・復習し自分のものにしていきます。

社会に出て活躍するためにしっかり部活を続け、日々の生活習慣なども注意して健康な体をつくります。



受講生の感想： テーマ “グローバルに活躍するために”

経営システム工学科 2年 女子

重要だと思うことは語学力と体力だと思います。語学力がないとどんなに仕事の能力があってもそれが伝わらなかつたら意味ないと思うし、仕事が出来ないのではないかと思います。だから今後の大学生活ではもっと語学力を身に付けたいと思います。具体的には海外に留学したり、大学内で行われている英会話に参加したり、積極的に英語と触れ合っていくことが大切だと思います。

またグローバルに仕事をするのに今までの日本での常識が通用しないことも多いと思います。つまり日本で仕事をするよりも苦労することがあるかと思っています。だから肉体的にだけではなく精神的にも健康であることはとても大切です。体力をつけるために自分なりに目標を決めてそれを達成する、妥協しないこと、自分を鍛えることが大切だと思うのでこれらをできるように小さなことから目標を立てていきたいと思っています。

経営システム工学科 3年 男子

私がグローバルに仕事をしていく上で重要だと思うことは、大きく捉えて2つあります。

1つ目は、何と言っても語学力であると思います。部長、課長や同僚など仕事を進めていく上で、重要な全ての人々が「日本語」が通じるとは限りません。「日本語」が通じない相手に対して他の言語やノンバーバルメッセージを用いて、その相手と上手くコミュニケーションを取れることが効率よく作業していくことに必要です。その上でやはり語学力が問われてきます。相手の思っていることを聞き取ることや自分の思っていることを伝えるためには、語学力が重要であると考えます。

2つ目は、高い教養であると思います。(自分が関与している)世界各国の経済状況や宗教など各国の現状を理解し、“タブー”に気をつけることがステークホルダーと良好な関係を築くうえで大事であると思います。

また、各国の文化を理解するためにも高い教養が必要です。例えば、アメリカのワシントンにある支社に勤務になった時には、「ワシントンと桜の木」が「ワシントン」という人名と「桜」という木の名前という2つが理解できたとしても、それが、どのような“話”なのかを理解していないと、同僚や顧客などに不信感を抱かれ、信頼関係を構築することが難しくなるので、高い教養が重要になってくると思います。

高い教養を身に付けるためには、“好奇心”が必要であると思います。大学生活で“好奇心”を持ってさまざまなことにチャレンジしていくことが、幅広いことを学

ぶことが出来たり、そのきっかけになったりするので、さまざまなイベントに参加し、たくさんのことを吸収していきたいと思っています。

経営システム工学科 2年 女子

グローバルに仕事をしていく上で重要なことは、語学力はもちろんだが様々な環境で対応していく力を持っていることが重要だと思う。そのためには講義のスライドにもあったように、幅広い知識を持つことやコミュニケーション能力が必要だと思う。そのために今後の大学生活では自分の知識を増やしていけるよう講義を聴いて様々な人の様々な意見を聴けたらいいと思う。また、コミュニケーション能力は、コミュニケーションが上手な人を見習って身につけられるようにしたい。

グローバルに仕事をしていくことを考えるとやはり、言語についてが、一番、気の重くなることだと思う。

やはり、基本となるのは、英語だと思うが、中学高校、大学と英語を勉強してきても自分で応用してコミュニケーションをとれるほどは身につけていないと思う。また、英語など話す能力を身に付けても、考え方の違いや、自分の言葉に自信が持てずに、控えめになってしまうのではないかなと思う。

英語の力はグローバルに仕事をしていく上では、絶対に必要だと思うので、今まで学んできた文法などの書くこと中心の勉強とは違う勉強方法で自分に合うものが見つけていけたらいいと思う。また考え方の違いや自信のなさとは違う国の人と関わる機会があれば、いろいろな考えかたがあるという事を学んでいけると思う。

今まで、海外で仕事をする中で重要となることは、語学力だけだと思っていましたが、今回の講義をうけて語学力はもちろん、日本で通用したやり方は通用しないことや、海外で事故にあったりスムーズにいかないことのほうが多いのではないかという事に気づかされました。グローバルに仕事をしていこうと思ったら、自分の知らないことがまだまだたくさんあるのだなと思いました。これからの大学生活で様々なことを学んでいけたらいいなと思います。



2014.11.11

ソーシャルディストラプトの時代 ～オールアバウトの戦略とグローバル展開～

(株)オールアバウト 代表取締役社長

江幡 哲也 氏 (S62電気)



江幡哲也氏による講義

プロフィール：

- ・ 1987年 武蔵工業大学（現 東京都市大学）電気電子工学科卒業
- ・ 同年 株式会社リクルート入社。エンジニアとしてキャリアをスタートし、その後数多くの事業を立ち上げ
- ・ 1996年に立ち上げたキーマンズネットにおいては、14個のネット関連特許を取得し、高い評価を獲得
- ・ 1998年度 全国優秀システム賞受賞
- ・ 2000年6月 株式会社リクルート・アバウトドットコム・ジャパンを設立、代表取締役社長兼 CEO に就任
- ・ 2004年7月 株式会社オールアバウトに社名変更
- ・ 2005年9月 JASDAQ 上場
- ・ 2006年 「アスピレーション経営の時代」講談社発刊専門家ネットワークを基盤に世の中の「情報流・商流・製造流」の不条理・不合理に対してイノベーションを起こし、“個人を豊かに、社会を元気に” することを目指す。



熱心に先輩経営者の体験を聞く受講生



先端ビジネスモデルは学生にとって未知の興味

講義の概要

- ・ 新しいことにチャレンジしたいという思いで就職したリクルートでのエキサイティングな体験と尊敬する人との出会い。
- ・ オールアバウトを起業した際に経験したグローバルに仕事をする面白さと難しさ。
- ・ オールアバウトの事業の広がり、分野毎の専門家との Win-Win 関係の仕掛け。
- ・ 世界で生まれている新ビジネスモデルの事例と着眼点。
- ・ 起業にあたって重要なコト（" 0 " を " 1 " にするには）。
- ・ 環境変化とオールアバウトの事業構造戦略。オールアバウトの成長戦略。
- ・ 次の 10 年に向けた環境の見立てと 4 つのイノベーションモデル。

受講生の感想： テーマ “新たにやろうと思ったこと”

経営システム工学科 3年 男子

事業を起こす時に、はじめは盲目的にがむしゃらにやってみるとおっしゃっていましたが、その部分をマネしたいなと思いました。何か新しいことをするとき私は、目処が立たないとすぐにだめなのではないかと思って、あきらめるか何か違うことにしてしまうので、やり遂げるための姿勢を真似していきたくと思います。

ずっとサッカーをしているのですが、最近母校の中学校サッカー一部のコーチを始めました。そのことで最近中学生と多く接する機会があり、どうすれば彼らが成長してくれるか日々考えています。やる側から教える側になったことでいろいろ考えることがあり、どうすればうまく教えられるのかということに今一番興味があり、気にしていることです。ぜひ県大会まで連れて行ってあげたいです。

特途中で質問もしましたが、ぜひバイクの CtoC 事業を始めたいです。

また、バイクは個人の売買が多いと聞きました。その中で名義変更の面倒さや、保険の引き継ぎなど様々な手間がかかる作業があって、きっと需要がたくさんあると思うのですが、CtoC 事業として成功させるにはどんな工夫が必要かと考えています。

経営システム工学科 2年 男子

「ラク・安定は人を怠惰にするので、自分で自分をカオスに持って行く」という考え方に啓発されました。これは日々勉強という考えと、謙虚にモノを見る姿勢に繋がっていると考えております。現状に満足せず日々高みへと進んでいく姿勢の大切さを再認識しました。

そのためにまずは、「変化を恐れず、新しい習慣・知識を”柔軟に”取り入れる」というマインドを刷り込みたいと考えています。

経営システム工学科 2年 女子

今回の講義を聞いて、私が新しく始めてみようと思ったことは、グローバルなことに目を向けて意欲的に学び、多くを吸収することです。

私は高校の時まで英語が苦手で、海外など興味もありませんでした。しかし、高校の修学旅行でアメリカへ行き、ホームステイを経験したことから、英語が好きになり海外に興味を持ちました。今では海外留学や海外インターンシップも視野にいれています。また、私は現在、韓国・中国人混合のアイドルグループの影響から韓国語や中国語も習得したいと考えています。

しかしながら、自分のやりたいことは明確であるのに対し、そのための準備はまだ何もできていません。そこでこの講義をきっかけに、言語習得のための勉強を始めようと思えました。

来年度になったら、英語系の講義はもちろん、第 2 外国語として韓国語と中国語も選択してみようと思います。現代では韓国語はともかくとして、中国との関わりが強く、国際的に考えたときに中国語を習得していることで役に立つ場面は多くあると思います。日本語、英語以外の他言語を習得することはとても大変なこととは思いますが、自分の興味のある分野と関連しながらも、社会に出た際に活用できる語学の習得は意味のある挑戦なのではないかと感じています。

今回の講義で、自分の中に付加価値を付けることで他の人との差別化を図るというお話があったように、さらにグローバルに関心を持ち、より一層の努力をしたいと思っています。

講義で伺った考え方や実行されたことの中で、私が一番まねしたいと思ったことは、大学時代のアルバイトの経験です。多くのアルバイトを経験することで得られることはたくさんあると思います。

講義の中でお話されていたように、量が質を生むのだと考えます。たしかに 1 つのことを継続して極めることもとても大切なことです。しかし、それは一方向からの視点に過ぎず、考えが偏りがちであり、視野は広がりません。多角度からの視点を持つことによって、苦難や困難に遭遇した際に機転や応用が利くと考えます。

社会に出てからではアルバイトはすることができません。時間に余裕のある今のうちに、大学での勉強を疎かにしない程度に、多くのアルバイトを経験してみたいと思います。そして、多くの量をこなし、多くの知識を吸収することによって、人間性の質を高めていきたいです。



受講生の感想： テーマ “新たにやろうと思ったこと”

経営システム工学科 3年 男子

講義を聞かせて頂いて、リーダーとしての魅力を感じました。それは高校、大学時代、社会に出るまえに興味のあることに飛び込んで、たくさんに経験をしているからに違いないと思います。私の性格として、楽しいことには興味があっても、苦しいこと、我慢することが好きではありません。しかし社会に出てからは学生時代のように自由に使える時間は少なくなると思います。そんな今こそ自分の身になる語学や資格の勉強をしていきたいと思います。それは自分自身にとって、社会に出た時に、強い武器になると思います。

いくら結果がでていなくても、成功するまで続ければ成功するという言葉がありました。また、頭のいい人はやめるのが上手い、という2つの言葉に印象を受けました。

想像の中の“社長像”に近かったです。とてもまっすぐな思いとリーダーシップを感じました。

経営システム工学科 2年 女子

何か新しく始めようと思っても自分の興味のある分野でないと続けられないと思うので、私は自分の興味のある語学について学んでみようと思いました。今年の9月に韓国に旅行に行ったときにもっと韓国語ができればなあと感じることが多くありました。また、2年生になり前期後期と韓国語の授業を履修して勉強してきましたが、自分で工夫をして学んでみたり、単語を覚えてみたりなど積極的に学ぶ姿勢が足りなかったのではないかなと感じました。

また、韓国人の先生から学ぶことはとても多く、語学を学んでいくことで広い視野を持つことが出来るのではないかなと感じました。韓国人の先生に、韓国と日本の文化の違いだけでなく、アメリカや中国など様々な国のお話を聞きました。そのことが今の自分にとっては韓国語を学ばなければ身に着けられなかったことだなど感じています。将来的に役立つかはわかりませんが、自分の力や違う視点を持つきっかけになると思います。これからも熱心に続けていきたいです。また、韓国語だけでなく英語や中国語も学びたいと思います。

今回の講義では今までより起業をすることについて多く学べたと思います。

その中でもやりたい事などをやるには世の中の仕組みをわかってからのほうが良いというお話を聴いて、とても共感しました。これから社会にでて働くようになったら仕組みを変えたらいいのになあなど思うことがあるかもしれませんが、けれど、最初の何年かは世の中の

仕組みを学んでいる最中であるという事を忘れずに仕事などに取り組んでいこうと思いました。また、何年かしたら自分の考えていることなどを形にしていけるような人になれたらいいなと思います。

経営システム工学科 2年 男子

すごいなと感じたことは『今』ではなく、『先、未来』に何が求められているかを予想・想像する力です。企業を作るうえでとても重要なことは、消費者が何を求めているかだと思うので、会社を継続して運営していくためにもしっかりと先を見据えて仕事をするという事を頭に入れておきたい。

今、一番熱中していることは世の中にどんな会社が存在するのかや、その会社がどういう企業理念を持っているのかなどを、就活の本や雑誌で読むことです。有名な企業でもどういう企業理念があるのか想像しにくい部分もあり、雑誌などを見たりすることにより『この企業はこういう企業理念があるから、こんな活動をしているのか』などが分かって面白く最近、熱中しています。

時代、時代に合わせてその時のニーズや未来のニーズを予想・想像していくことが凄く勉強になりました。自分は将来『サプライズを企画し人々を笑顔にさせる』企業を作っていきたいと思っていますので、常にニーズの部分を考えていこうと思います。また、日本が課題先進国として課題を一番に解決して世界を引っ張っていきるといいなと思いました。



受講生の感想： テーマ “新たにやろうと思ったこと”

経営システム工学科 2年 女子

インターンシップに行きたいです。私たちの就活時期は今より遅くなるので学生のうちに社会のことを少しでも知りたいです。周りにも2年の時からインターンシップに行っている人がいて考え方や行動が少し変わった気がします。インターンシップに行っても多くのことを吸収して強くなりたいです。

もともとプロダクトデザインに興味があってこの学科を選びました。便利な新しいものをつくりたいです。将来的にもそんなものづくりに関われる仕事に就きたいです。

今興味があること好きなことは好きなバンドのライブに行くことです。音楽自体が好きですし、ライブハウスやカフェ自体の雰囲気が好きです。バンドやライブ会場によっても雰囲気は全然違ってとてもおもしろいです。生で観たり、聞いたりすることが毎回新鮮で楽しいです。ライブに行くことで今まで知らなかった音楽に出会えて、音楽だけでなく素敵な絵描きさんや、雑貨屋さん、ごはん屋さんにも出会えるのが楽しいです。知らない世界や知らないものに出会えることが最近とても楽しいです。

経営システム工学科 2年 男子

専門家の人と会社側が互いに WIN-WIN の関係が出来るオールアバウトの仕組みは、ビジネスをやっていくにあたって真似して使いたいものだと思います。普通だとどちらかが損をすることが多いので（会社は出演のためのお金を払いたくない。専門家は仕事なのでギャラが欲しいという2つの争い）のでこの仕組みは画期的で良いものだと思います。

今回の講義でも「企業は環境の変化に対応することが重要」と言っていました。講師の方々が同じようにこのことを言うので、本当にこのことが重要だと改めて感じました。

経営システム工学科 3年 男子

今回の講義で、自分のやりたいことをするためには、実力がなければならないという話を聞き、これは言われてみれば当たり前のことではあるが、今回の講義で社会に出たら実力がモノを言うということを再認識した。私は今回の講義以前から、若いうちは昼夜問わず自分の成長のため、その成長が報酬につながるのであればより厳しい環境に身を起し、自分の成長に努めたいと考えている。

若い頃は家にほとんど帰らなかったが働くことがすこ

く楽しかったとおっしゃっていたので、その辺の考え方はすごく近いものがあるのかなと感じた。「若いうちはある程度の量が質を生む」という言葉にとっても共感して、若いうちからバリバリ働くというところをまねしたいと感じた。

ここで私が一番大事だと思うのは、自分がどんな環境で働いていくかだと思う。そのために今できることは、就活に対して十分な準備をもって望むということだと思う。これは今回の講義を受けて新しく始めようと思ったことというよりは、再認識して更に真剣に取り組んでいこうと思えたことだが、私は今回の講義を受けて、就活に関する行動をより積極的にしていこうと思った。

経営システム工学科 2年 女子

1番興味のあることは、今まではアルバイトでした。普通のアルバイトとも少し違い、参加型のアルバイトのためお店をどのようにしていくか、どう配席すれば効率よくお店が回るか、1つ2つ先のことを考えながら行動する、後輩の指導、1つ1つの気づきなどのことを楽しんで夢中でしていました。そして2年経ち、今度は昔熱中して学生生活が終わる前に後悔する前におきたいダンスを復活したいと思います。

また、介護サービスにも興味があると質問させていただきましたが、家庭での介護しか知らないため、実際に老人ホームなどでアルバイトしてみることもいい勉強になるのではないかと考えています。

講義は本当に面白く、全講義のなかで1番メモをとりました。知識の量にも驚かされました。講義のあともお話させていただきましたがどんな些細な私の言葉にも1聞けば10答えてくれて大変考えさせられました。





アップル対サムスン訴訟にみる米国陪審員裁判の特殊性

Westerman, Hattori, Daniels & Adrian, LLP Senior Partner 米国特許弁護士・法務博士・日本弁理士

服部 健一 氏 (S41機械)



服部健一氏による講義



同事務所のマイケル・カリディ氏の講義で英語も勉強

プロフィール：

- ・1966年 武蔵工業大学（現 東京都市大学）工学部機械工学科卒
- ・同年 特許庁入庁
- ・1972年 通商産業省大臣官房企画室
- ・1979年 ジョージワシントン大学へ政府留学
- ・1980年 特許庁調整課
- ・1982年 特許庁審判官
- ・1983年 特許庁退職、弁理士登録
- ・1984年 アームストロング・ニカイドー・マーメルスタイン & ク
ボーチェック法律事務所アソシエート
- ・1988年 米国弁理士登録
- ・1989年 ジョージ・メイソン大学ロー・スクール卒業
- ・1990年 米国ワシントン D.C. 及びバージニア州弁護士登録
- ・1991年 アームストロング・ウェスタマン & 服部法律事務所パ
ートナー
- ・2003年 ウェスタマン・服部・ダニエルズ & エイドリアン法律事
務所シニアパートナー 現在に至る

【著書】

- ・ THE ITC 判決からみる米国輸入通商法の運用（1989年、日本
貿易振興機構）翻訳
- ・ アメリカ連邦裁判所 民事訴訟手続きと基本法体系（1993年、
発明協会）
- ・ 日米特許戦争の狭間で 米国特許弁護士・パートナーへの3000日
（1994年、ジャパントイムズ）
- ・ くたばれアメリカ弁護士 ジョークで知る爆笑訴訟社会（1996年、
ディーエイチシー）
- ・ 知財、この人にきく Vol.3（2010年、発明協会）
- ・ 新米国特許法（2013年初版、2014年増補版、発明協会）

日本特許庁、東京知財高裁、日本弁理士会、日本知的財産協会、
発明協会、知財翻訳研究所、翻訳センターならびに日米多数の
大学等教育機関において、常時講演を行っている。日本人弁理士
で初めて米国の特許弁護士資格を取得。

講義の概要

- ・ 特許庁、通産省での経験（政策遂行とは、印象深い人、テニスへの打ち込み）。
- ・ 米国でロー・スクールに入学し法務博士となるまでの体験。
- ・ 日本の強みの自覚が重要（科学技術力、優れた中小企業、高品質、使命感の高さ）。
- ・ 米国他海外から見える日本の姿と問題点。
- ・ 日米両方を知ることのできるグローバルな特許業務の価値。
- ・ 米国での特許裁判制度の概要：裁判制度の日米の違い、技術に関する判断の手順。
- ・ 米国での特許裁判の流れと特徴：法律事務所パートナー、マイケル・カリディ氏と英語・日本語による共同講義。

講義後、Washington, D.C. にある講師の法律事務所で夏季研修を体験した学生との懇親会を実施

受講生の感想： テーマ “日本の強み、海外で働く”

経営システム工学科 3年 女子

私は「おもてなしのこころ」が日本の強みだと感じています。生まれながらに備わっている価値観、「気づかい」や「思いやり」の文化は素晴らしいと思います。

時間を守るという習慣も、決められた時間内で最大の効率を発揮することができ、お互いに良い関係を築きあげられる強みだと考えます。

また順番を守り列に並ぶ、掃除を常に行うなどといった、過ごしやすい社会を作ってきた日本独自の習慣は日本のサービスの品質の高さや、ビジネスに繋がっていると考えられるからです。

私はなんとなく大学に入り、勉強が好きではありませんでした。ですが、海外インターンシップを終えて大きな変化がありました。勉強は大変ですが以前のように嫌々ではなく、考え方が前向きになったのです。詳しく何故だかはわからないのですが生きてきて、勉強することが苦ではないことを初めて経験しました。物事に対する考え方も変わり、相手の立場を考え行動するような意識を持つようになりました。

経営システム工学科 2年 男子

日本の一番の強みは、和の力だと思います。海外と比べて日本は温かい人々だという話をよく聞き、海外からの日本に対する評価も低くないと感じます。

日本についてももっともっと知らなければいけないなということを凄く感じました。日本刀の話や昔の歴史や、これから行われる東京オリンピックなどで予想される外交問題など、日本人であるのに日本のことに関して知らないことが多すぎるとおっしゃっていたことに凄く刺激をいただきました。

海外でやってみたいのは『日本の事、日本の良さ』などを広めていけるような仕事です。

英語ができないのでそれが一番不安で解決しなければと感じていますが、色々な国々においてそれぞれの異なる文化があると思うので勉強していきたい。

今回の特別講義は内容的にも凄く難しくて頭を使いました。海外と日本で裁判のやり方に違いがあるのは知らなかったです。講義の最後に日本はまだやっていると力強いお言葉を聞き、これからを担っていく自分たちがしっかりしていかなければいけないと感じました。

経営システム工学科 2年 男子

日本人の強みと感じている部分は「時間通りに動く」と「工業の緻密さ」だと私は考えます。

「時間通りに動く」というのは、日本は電車の時刻通りに電車が来るところやバスの時刻ですらそれなりに遅れないで来るという「習慣・風習」があります。このようなことは他の国だと驚かれることです。それだけ時間をしっかり管理して行動していることなので、独自の文化の強みとして誇れるものだと思います。

「工業の緻密さ」は敗戦国である日本がそこから復活するために一生懸命勉強して、身につけた「技術・技法」だと思います。そして自分の力だけで高度経済成長まで発展させました。自分の力だけでここまで発展させた経験はかなりの強みだと思います。そのレガシーとして「工業の緻密さ」があるのもかなり強みだと思います。

経営システム工学科 3年 男子

日本の強みは、町工場の技術力であると思います。技術力とは部品の精度の良さであります。大きな製品の一部となる部品を製造している町工場がたくさんあるということ。BtoB 市場でご活躍されている企業が多いので、一般消費者には分かりづらいが町工場の技術力は日本の強みであると思う。

マイケル先生による英語での講義は、ネイティブの英語を長い時間聴くということはめったにないので、非常に刺激になった。



2014.12.09

受講生の感想： テーマ “日本の強み、海外で働く”

経営システム工学科 2年 女子

私が日本の強みであると感じていることは、日本人の性格や感性といった人間性です。日本人の性格として、礼儀正しく、勤勉で、粘り強い、などといった特徴があります。また、自分の主張ばかりでなく、相手の意見も聞き、尊重できるような心も持ち合わせています。自分中心主義でなく、お互いを尊重し高め合うことで、より良いアイデアなどが生まれてくるのではないかと考えます。

また、日本の技術力は世界でも誇れるものであると思います。お話の中で、アップルの iPhone の心臓となる部品は多くが日本で作られたものであると伺いました。日本には、最先端の技術があり、優れた技術者が大勢います。それと同時に、先ほども述べたように、日本人の人間性もこれらに関係し、世界でもトップレベルの技術力に繋がっているのではないかと感じます。

今回この講義を聞いて最も刺激を受けたことは、ロー・スクールの試験に通った時のお話です。日本人であるのに米国の地で戦うということに、まず大きな刺激を受けました。さらに、そこでの戦い方にも凄さを感じました。アメリカ人はディベートが上手ですが、その反面、話に起承転結がありません。それに対し、日本人は勤勉であり、やるべきことはしっかりとこなし、勉強も怠りません。また、学校教育においても、国語の授業などで話の構成を勉強しており、話をする際に起承転結がしっかりとできてまとまりがあります。その特徴を活かして、試験を突破するある種の戦略に、私も自分に合った自分なりの戦い方を見出すことをしてみようと思いました。

理系の私にとっては、法学的なお話はとても新鮮で興味がわき、新しい視点を持つことができたように感じます。自分たちの学んでいる内容と異なる内容を聞くことで、自分自身の成長や、将来なにか役に立つ機会があるのではないかと思います。

また、マイケルさんがお話しているときに、自分の語学力の無さを実感しました。聞き取れるところも多くありましたが、やはり通常のスピードで英語を正確に聞き取ることはとても難しかったです。国際化が進むにあたり、語学力の必要性は高まってくると思うので、大学生のうちから勉強を進めていき、就活においてもアピールポイントとなるレベルまで語学力をつけていきたいと思っています。普段このような場はあまりないので、とても良い経験になりました。

経営システム工学科 2年 女子

ものづくりの技術の高さ、海外から入ってきたものから新しいものを作る発想力などが強みだと思います。

会社の制度などを見ていて思うのが、日本人は自分のためはもちろんですが会社のため、社会のために一生懸命働く人が多いと思います。この考えがあるから日本の技術、会社は大きく成長したのだと思います。不況で日本の経済も企業も大変な時だけれど、この日本人の考え、働き方があれば乗り切れるのかな、乗り切りたいな、と思います。

経営システム工学科 3年 男子

今回の講義に限らず、講演して下さったほとんどの方が日本は技術力だとおっしゃっていたことから、やはり日本といえば技術だと再認識した。日本の製品は、世界的に見てとても品質が良く、長持ちすると言われていたが、これは日本の技術力の高さに加えて日本人の国民性的なものも関係していると思う。優れた技術に加え、丁寧な仕事ぶりが日本の強みだと思う。

具体的な仕事内容は、働いたことがないので詳しくは分からないが、海外で新規拠点の立ち上げなどができたら楽しいと思う。日本でプロジェクトを立ち上げるのとは違い、海外だと政府や国民性などたくさんのことを新たに考慮しなければいけないため大変ではあるがとてもやりがいのある仕事だと思う。また、海外で仕事をする上で一番不安な点はやはり語学である。軽いコミュニケーションをとるだけならばどうにでもなると思うが、働くとなると最低限以上の英語力が求められると思うので語学がやはり一番不安な点だと思う。



受講生の感想： テーマ “日本の強み、海外で働く”

経営システム工学科 3年 女子

日本の強みは技術力と経済力の高さだと思います。一つ一つ丁寧だと思います。自動車などもトップクラスです。人間性も、日本独自の礼儀作法やわびさび、一歩下がって相手を思いながらの人のよさは強みだと思います。

テニスで全国大会に出場したり、シニアで優勝したりなど、文武両道で素晴らしいと思いました。

何か没頭できる誰にも負けない趣味をつくることも大切なのだと思いました。

興味深い講義でした。英語での講義を訳してくださいながら、聞くというのも英語の勉強にもなりました。通訳なしでも聞き取れるようになりたいと思いました、また、先輩方も英語で質問していて、素晴らしいなと感じました。

経営システム工学科 3年 男子

日本の強みは大企業を支える中小企業や町工場の人たちの技術だと思います。日本の技術を支えてきた人たちの技術力は世界でナンバーワンだと思います。この人たちの技術を受け継ぐ後継者がいないことはとても問題だと思います。世界に誇れる技術は受け継いでいってもらいたいと思います。

日本人は人間性も素晴らしいと思います。スポーツの観戦などで、見終わった後きれいにしてスタジアムを後にするのは日本人だけだと思います。海外のスタジアムなどは試合の後ゴミだらけでとても汚いのを VTRなどで見たことがあります。

ジョブズがしたこと多くのタネを日本が持っていた所がすごいと思いました。そして日本人、日本企業の弱い所も理解できたような気がしました。大胆なことが出来ていないのかなと思いました。これからの日本の企業の業態が変わると言っていたのも刺激になりました。

これからの日本を良い方に変えていくのは僕たちの世代だと思います。どんどん時代は変わっていくので、みんなが便利と感じ、使用したいと思うようなものを発明してみたいと思いました。

アフリカで、すべての人が電気を安全に使えるような仕事をしてみたいです。まだまだ、栄養も足りてないと思いますし、生活も不十分だと思います。なので、そのような人たちが少しでも便利になるような生活を送れるような仕事をしてみたいです。

経営システム工学科 2年 女子

日本人はとても親切だし、信頼感があるのではないかと思います。日本は治安が良いのでモノを盗られたり、タクシーでお金をぼったかれることは少ないと思います。それは日本のとても良いところだなと思います。

アメリカに行ってロースクールに通うために働きながら勉強して、ロースクールに入ってから仕事と両立し続けるのはすごい体力だと思います。

海外に行ったら現地の言葉か英語がしゃべれないと仕事ができないと思うし、生活するのにも困ることが沢山あると思います。そして海外の人の大胆な考え方についていけるかも不安です。

今、海外で仕事をするのは全く想像が付きませんが、日本の企業で海外展開しているところならば働いてみたいと思いました。

わざわざアメリカから講義に来て頂きありがとうございました。マイケルさんの裁判の話は難しかったです、中々こういう話は聞けないのでいい経験になりました。





卒業生受講者からのメッセージ

矢崎 克美 氏 (S54 経営) 経友会会長
鈴木 典幸 氏 (S52 経営) 経友会副会長
加藤 友之 氏 (S40 経営) 3 期生 柏三水会

薩川 宣昭 経営システム工学科 技士補 (H10 経営)
[コーディネータ] 松崎吉衛 経営システム工学科 教授

本特別講義は、学部生、大学院生が受講するだけでなく、本学卒業の社会人も参加しています。社会人にとって、実務経験を積んだ上で聞く講義内容は自分の仕事に照らして参考になるところが多いと思います。それだけでなく、本学出身の経営トップと知りあえたり、卒業年度や学科の違う同窓生との人脈を広げる貴重な機会になります。多忙な中、ほぼ毎回出席した社会人には修了証書を授与しています。また、学生にとっても社会人受講者と講師の質疑は、社会人の仕事に関する会話を聞ける貴重な体験であり、社会人先輩との討議を通して講義の理解を深められます。

本座談会では、本講義の開催支援をして頂いている経友会（経営システム工学科 同窓会）の会長、副会長である矢崎克美氏、鈴木典幸氏、経営システム工学科の大先輩である加藤友之氏に日頃の会社経営で多忙の中お集まり頂き、更に価値有る特別講義にしていくための提言を伺いました。



学生時代にやってよかったこと、学生へのアドバイス



矢崎 当時「経営工学科」はまだ創設されたばかりで、経営工学とは何をする学科なのか分っている人が少なかったですが、社会に出てみると、業務改善、生産管理、品質管理など、企業の仕事に一番近いことを勉強したことが分かりました。また、グループ会社間で管理技術の競技会のようなものがありましたが、大学で泥臭く実務をさせられたことが役立って、他社からも知られるようになりました。

加藤 指導教授が企業から委託研究を受けて、学生を現場に送り込んで社会経験をさせていました。訳のわからないことも有りましたが面白かった。

加藤 丁度、授業カリキュラムを確立していく時期だったので、カリキュラム作りを手伝わされました。立上げ時期に自分で一から考えるのは、とても良い経験でした。

矢崎 卒業研究の時に、先生から工場に送り込まれて現場のデータ取りをさせられました。学生時代から随分会社に行かされましたが、こういうやり方が実務に強く、就職に強い大学になったのではないのでしょうか。

加藤 大学時代にやっておくとよいのは、学生時代にしかできないことです。社会に出ると効率やスピードが求められるので、既存の技術やコンポーネントをいかに上手く使うかが求められます。

でも原理原則を知らないと革新的なことはできません。大学時代は、時間は十分があるので、一から自分で考えて自分でやってみることができます。このプロセスが社会にでて力になると思います。

社会人にとっての特別講義の面白さ、印象に残ったこと



加藤 一連の講義を聞いて、講師の方々には共通に、学生時代から何か面白いことをしてやろうという気持ちで、極めてアクティブに取り組んでいたことが分かりました。経営者になる人は、はじめからトップを目指す気持ちを持っているのだと改めて思いました。アルバイトも色々やられていますが、お金よりも社会経験することが面白かったようです。



鈴木 講師の方は皆さん前向きなので、苦勞された事も面白おかしく話されました。我々社会人にはその時の大変さを知ることが出来ましたが、学生には社会で障害に直面した時の思いなどを知らせることも必要なと思いました。

鈴木 会社は厳しいので、全体を見る人間と、部分を効率よくやる人間に分けて仕事をさせます。経営に携わるのなら、全体プロセスを見られる力を付けていくことが必要です。

矢崎 管理技術をやっている者は、個々の事業の盛衰によらず活躍できるのがよいと思います。

松崎 私は本学に来る前は総合電機メーカーにいましたが、確かに半導体の設計者が列車の設計者になるのは容易ではありませんが、半導体の生産管理をしていた人が、鉄鋼の生産管理で活躍するような例はいくらでもありました。

加藤 経営をしていると必要なことが非常に幅広い。製品技術は勿論、会計、税務、安全工学など必要なことが沢山あります。もっと勉強しておけばよかったと思うことが沢山あります。

社会に興味を持たせる教育方法

加藤 学生に自分で考えさせる教育が大事だと思いますが、出来てますか？

松崎 アクティブラーニングの有効性はよく認識しています。本格的にやるのは、学生を個別テーマで指導する3年の事例研究や4年の卒業研究です。

加藤 1年の時から実社会に触れる場を作るべきではないですか。

松崎 都市大には部活の一つとして学科毎に「学科研究会」があり、経営システム工学科には「経工会」があります。新入生のかなりが入るので、この場で、学生同士や教員も入り込んで実社会の課題を検討します。

加藤 「経工会」は自分の代に作りました。当時ミニケーススタディを沢山やりました。

いい意味で学生を突き落とし、這い上がってくる力を付けさせる教育が必要だと思います。学生を育てるには、1、2年の時を厳しくしてよく考えさせるのがよいと思います。

薩川 経営システムの課題は身の回りに面白いネタが沢山あります。学生にどのようにして興味を持たせるが重要です。

鈴木 例えば学内店舗の経営を学生に任せるのはどうでしょうか。

加藤 企業展示会が東京には沢山あるので、学生に行かせて社会人と会話させるのもいいと思います。

松崎 確かに卒業研究に関係する展示会などを教えてあげると、学生は興味を持って行きます。意外なのは、これだけネット社会になっているのに企業情報のあるサイトを学生は知りません。企業やメディアのメルマガなどで学生の参考になりそうなものがあると転送しています。

特別講義を更に発展させるには

加藤 特別講義に対する受講学生の感想はどうですか。

松崎 先輩経営者から体験に基づくリアルな話が聞けて非常によかったという意見です。大学には「授業改善アンケート」という仕組みがあり、学生に10数項目について授業の評価をして貰っていますが、私の担当する授業の中でも、この特別講義の点数が一番高いです。

加藤 受講した結果が「大満足」ということならば、もっと強制的に受けさせたらどうですか？ 勉強もスポーツと同じで、「自主」と「強制」の両方が必要だと思います。

薩川 先ほどの「経工会」の部員は元々経営に興味がある学生なので、強く受講を勧めるのもよいかも知れません。

鈴木 一口に社会人といっても、年代によって、特別講義の意義が大分違うと思います。私自身はずっと理解できる講義とそうでないものがありましたが、実社会で難しい課題に直面し乗り越えられた講師の話はどの世代の方にも大きなヒントになると思います。

矢崎 30歳前後は社長クラスの方と話せる機会は少ないので、気楽に先輩経営者と話せる機会はすごく役立つと思います。社会人としての生き方を書いた本は色々ありますが、直接聞ける機会は本よりはるかに有効です。

加藤 この特別講義は非常によい企画です。これを始めた鈴木威一先生は本当によいことをしたと思います。経営システム工学科以外の学生がもっと多く参加するようにPRしてください。

学生への一言

松崎 言い残されたことを一言お願いします。

加藤 英語はちゃんと勉強しておいた方がよい。

鈴木 今回の講義を聞いていても、グローバルな経営者は英語ができなくては務まらないことがよく分かりました。前提として日本語がきちんとできることは言うまでもありませんが。

薩川 自分の経験では朝から晩まで英語に囲まれた生活をさせるのが一番有効だと思います。

矢崎 自分の息子達を見て面白いのは、学校での英語の成績と英会話の力は違うことです。座学だけでは駄目ですね。

鈴木 意外だったのは大学での化学の勉強が、公害に関係する勉強や役所への申請報告で非常に役立つことです。

加藤 何でも一生懸命勉強したことは、20年、30年の人生の中で必ず役に立ちます。そのことを学生に気付かせたいものです。

松崎 有難うございました。次年度も新たな講師をお迎えし、新しい学生が受講しますので、是非ご参加ください。



The Professional Series

Management in the Global Society

グローバル社会における

経営

東京都市大学出身の
有名企業経営者及び
起業家による特別講義

プロジェクトマネージャー 松崎 吉衛
アドバイザー 鈴木 威一
撮影・編集 薩川 宣昭 / 松崎 吉衛
デザイン 竹井 弘幸
学生スタッフ (2014 年度) 稲川 智乃 / 河津 由里子 / 組谷 建瑠
佐藤 麟太郎 / 村松 隼人 / 若槻 雅也
主催 知識工学部 経営システム工学科
共催 経友会 / 経工会
協力 学校法人五島育英会 法人本部広報グループ

特別講義 お問い合わせ

mail tokyo104@ims.tcu.ac.jp

web [http:// 経営システム .jp](http://経営システム.jp)
<http://www.ims.tcu.ac.jp>



特別講義 グローバル社会における経営 第4章

2015年8月20日発行

発行人 松崎 吉衛

発行者 東京都市大学 知識工学部 経営システム工学科
〒158-8557 東京都世田谷区玉堤 1-28-1 TEL 03-5707-0104 (代)

印刷所 富士印刷有限会社
神奈川県横浜市西区浜松町 8-7

特別講義 第5章

「グローバル社会における経営」

～東京都市大学出身の有名企業経営者及び起業家による特別講義～

2015年

日時: 9月29日 10月13・27日 全8回 隔週火曜日

11月10・24日 12月8・22日 1月12日

18:30～21:50 (開場18:00)

会場: 渋谷サテライト教室 (9/29ガイダンスと1/12まとめは世田谷キャンパス 5時限17:00～)

対象: 全学部学生(学部・大学院)、卒業生

司会進行: 東京都市大学 経営システム工学科 教授 松崎 吉衛

日程	内容	講演者	所属
1回 9/29	学生向けガイダンス グローバル経営の課題	松崎 吉衛 氏	元 (株)日立製作所 理事 日立金属(株) 事業役員 現 東京都市大学 経営システム工学科 教授
2回 10/13	欧・米・アジアの企業経営をして 面白かったこと	鈴木 威一 氏 (S41 通信)	元 オランダ フィリップス 副社長 現 (株)エグゼック 取締役会長
3回 10/27	人、行動、スピード	押部 弘 氏 (S54 機械)	(株)東設 代表取締役社長
4回 11/10	今日の経営者は何を考えて いるのか?	原口 兼正 氏 (S49 通信)	元 セコム(株) 社長 現 セコム(株) 顧問 東京都市大学 客員教授
5回 11/24	リアルとネットの融合により もたらされる新しい社会のあり方	鈴木 康弘 氏 (S62 電気)	(株)セブン&アイHLDGS. 取締役執行役員CIO 兼 (株)セブン&アイ・ネットメディア 代表取締役社長
6回 12/8	米国産業・大学の 知的財産戦略	服部 健一 氏 (S41 機械)	Westerman, Hattori, Daniels & Adrian, LLP Senior Partner 米国特許弁護士・法務博士・日本弁理士
7回 12/22	海外生産革新コンサルティング	早川 雄之助 氏 (S45 経営)	元 SONY台湾 Personal Network Company 社長 (総経理) 現 早川生産革新有限公司 社長 (董事長&総経理)
8回 1/12	学生向けまとめ・レポート	松崎 吉衛 氏	前出

※講師のご都合により、講演者が変更になる場合もあります。



The Professional Series

Management in the Global Society

グローバル社会における

経営

東京都市大学出身の
有名企業経営者及び
起業家による特別講義

オランダに本拠を置く多国籍企業・フィリップスの本社副社長を務めるなど、海外でのビジネス経験が豊富な鈴木教授。在職当時にはさまざまな国籍の部下と仕事をされたそうですが「日本の若者が一番元気がなかった」とおっしゃいます。「今や製造業や技術系の企業は外国に出るのが当然の時代であり、グローバル化は他人事ではないということを学生たちに理解してもらいたいと痛感しました。それには現場の先輩たちに具体的な話をしてもらうのが一番だろうと考え『グローバル社会における経営』というテーマを設けた訳です」

(TCU QUARTERLY No.180 2011.7 より)